

---

平成26年度  
国分寺市埋蔵文化財調査年報

---



平成28年3月  
国分寺市教育委員会



## 序

本年報は、平成 26 年度に国庫補助事業によって行われた国分寺市内の発掘調査について報告するものです。平成 26 年度は、個人住宅建設に伴う発掘調査を 2 件、個人住宅および集合住宅や分譲住宅建設等に伴う確認調査を 8 件実施いたしました。

武蔵国分寺に関わる遺跡では、武蔵国分僧寺の北西、東山道武蔵路西側にあたる場所で、平安時代の掘立柱建物や堅穴住居の一部が見つかり、建物が密集している場所であることがわかりました。

武蔵国分寺の僧尼寺中間地点では、古代の官道である東山道武蔵路が確認されました。直線的に造られた道路の幅は両側に設けられた側溝の心々で約 12 m を測り、東山道武蔵路の実態がまた明らかとなりました。

このほか、縄文時代の遺跡では、土器の破片などが出土しており、遺跡の広がりを知るうえで貴重な資料を得ることができました。

これらの成果を報告するにあたり、発掘調査から出土品等の整理作業・本書の刊行に至るまで多大な御協力をいただいた施主の皆様をはじめ、関係諸機関の皆様方、御指導を賜りました各位、そして近隣住民の方々へ厚く御礼申し上げます。

平成 28 年 3 月

国分寺市教育委員会  
教育長 松井 敏夫

表紙写真

- 右上：武蔵国分寺跡第 705 次調査 東山道武蔵路西側側溝断面  
右下：武蔵国分寺跡第 700 次調査 調査区全景（遺物出土状況）  
左：武蔵国分寺跡第 702 次調査 掘立柱建物・竪穴住居完掘状況

## 例 言

1. 本書は、東京都国分寺市において、平成26年度に実施された発掘調査15カ所のうち、国分寺市教育委員会が国庫補助事業として実施した10カ所について報告するものである。調査対象となった遺跡は5遺跡で、調査の種別は発掘調査（本発掘調査）が2件、確認調査が8件である。
2. 発掘調査（平成26年度）および出土品等整理作業・報告書作成作業（平成27年度）にかかる経費は、文化庁の「国宝重要文化財等保存整備費補助金」を得て実施した。費用の負担割合は国1/2、東京都1/4、国分寺市1/4である。
3. 発掘調査・出土品等整理作業は、国分寺市教育委員会が調査主体となり、国分寺市遺跡調査会（会長：坂浩秀一）に委託して実施した。調査担当は、国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係長 依田亮一、同係 上敷領久（平成26年度）・増井有真である。
4. 本書の執筆・編集および遺物観察表の作成は、坂浩秀一調査団長の指導のもとで増井有真が行った。
5. 本書の挿図・表等の作成にはMicrosoft®Word®・Excel®、Adobe®Illustrator®・Photoshop®・Indesign®の各ソフトを用いた。
6. 個々の調査地区概要の中に記している「遺物箱数」は、現場作業終了時点で確認した出土遺物量で、単位（箱）はコンテナ（34×54×20cm）の箱数を示す。
7. 調査における図面は、全体図1/100・遺構平面図1/20・断面図1/20で記録している。写真は35mmフィルム（カラーポジ・モノクロネガ）とデジタルカメラを併用して撮影している。
8. 遺物や各種図面・写真類は、一括して国分寺市教育委員会で保管している。
9. 発掘調査および遺物・資料整理作業、報告書作成業務に従事した者は下記の通りである（五十音順・敬称略、上記ふるさと文化財課職員を除く）。

【ふるさと文化財課史跡係】 島田智博（平成27年度）・中野 純（平成27年度）・中元幸二・平山美由紀（平成26年度）・中元恵美子

【国分寺市遺跡調査会】 井口正利（平成26年度）・井上 翔・岩田尋湖・小野祐子・桂 弘美・小池和彦・佐藤 令・相馬しのぶ・富澤 好・平塚恵介・藤崎 努・矢内雅之

【国分寺市シルバー人材センター】 青山達夫・伊藤直美・高橋より子

【国分寺市ふるさと文化財愛護ボランティア】 梅山伸二・上村雄三・佐々木義身

10. 発掘調査・出土品等整理作業・報告書作成作業では、下記の諸氏・関係機関から御指導・御協力を賜りました。記して感謝申し上げます（順不同・敬称略）。

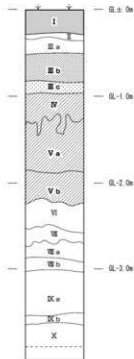
稲積 憲・合田恵美子・介川ゆみ・高橋 淳・平島 毅・森谷弘義・株式会社アストラ・株式会社リノベイト・東京ベストホーム（株）・野村不動産株式会社・三菱地所レジデンス株式会社・文化庁記念物課・東京都教育庁地域教育支援部管理課埋蔵文化財係・国分寺市文化財保護審議会・国分寺市史跡武蔵国分寺跡保存整備委員会・国分寺市遺跡調査会調査研究指導委員会

## 凡例

### ① 国分寺市の基本土層について

国分寺市域で用いる層位区分は、表土（I層）下の黒褐色土を黒色味が強い上層（II層）と、ローム層への漸移層である下層（III層）に細分している。そのため、黒色土をII層、III層以下をローム層にあて、一般的に武蔵野台地上の遺跡における層序区分とは呼称が若干異なっている。本書で報告する調査対象地は、武蔵野段丘面と立川段丘面とに存在するが、堆積土層は下記のとおりほぼ共通した層序区分を示す。

- I 層 表土。近～現代の盛土、および耕作土。層厚約 30～50 cm。
- II 層 黒褐色土。粒子が粗い。締まりはやや弱い。粘性は弱い。古代～中世の遺物を包含し、古代の遺構覆土に似る。層厚約 10～15 cmだが、市内では削平されていることが多い。
- III a 層 黒褐色土。粒子はやや粗い。粘性はやや弱い。層厚約 10～15 cm。同層上面が本来の古代の遺構確認面であるが、II層と類似した土質であることから、この下層において遺構を視覚的に検出することが多い。
- III b 層 暗褐色土。III a 層より明るく、褐色味が強くなる。軟質で粘性はやや弱いが、III c 層に近づくに連れて粘性が強くなる。縄文時代中期の遺物を包含する。層厚約 30～40 cm。
- III c 層 茶褐色土・暗黄褐色土。縄文時代早～前期の遺物を包含する。ローム層への漸移層で、赤色スコリアを多量に含む。層厚約 10～15 cm。
- IV 層 黄褐色土。ソフトローム。V層との境は凹凸が激しい。層厚約 15～25 cm。
- V a 層 黄褐色土。ハードローム。色調によって a・b の 2 層に分けられる。下層にいくに従い黄色味が薄くなり灰褐色味を帯びてくる。その色調は漸移的に変化する。赤色・黒色スコリアを多量に含む。部分的に V b 層と中間の色調を有する部分がある。
- V b 層 暗灰褐色土。ハードローム。色調は V a と VI 層の中間。
- VI 層 暗褐色土。立川ローム第一黒色帯。スコリアは細かく、全体に粒子緻密。やや粘性を増す。
- VII 層 黄褐色土。黄色味が強く、明るい。VIII層へは漸移的に移行し、境界はやや不明瞭。削るとジャリジャリする（A T 層）。
- VIII a 層 褐色土。立川ローム第二黒色帯。VII層下部に似て、やや暗くなり始めるところから本層とし、削るとジャリジャリする。黒色・赤色スコリアを含む。
- VIII b 層 暗褐色土。立川ローム第二黒色帯。VIII a よりさらに色調が暗くなる。粒子が細かく、緻密で粘性がある。黒色・赤色・青色・白色スコリアを多く含む。
- IX a 層 暗褐色土。立川ローム第二黒色帯。VIII b よりさらに黒色味増。粒子は細かく、緻密で粘性が強くなる。
- IX b 層 暗褐色土。立川ローム第二黒色帯。成分は IX a 層と同じで、粒子は細かく、緻密で粘性が強い。下部の 5～10 cm は X 層の影響から IX a 層より明るい部分もある。
- X 層 黄褐色土。粒子極めて細かく、緻密で粘性のあるローム土。



国分寺市内の  
平均的な層序

### ② 調査地区の位置について（グリッド）

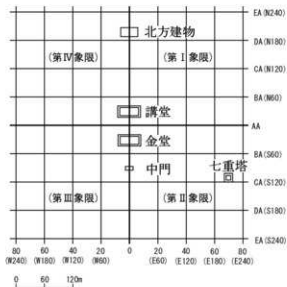
国分寺市では、No. 10・19 遺跡である武蔵国分寺跡（僧尼寺）の広大な範囲を統一して調査するため、局地座標系を用いている。

座標原点は僧寺伽藍中軸線を基準に、金堂中心の北 26.276 m の中軸線上の点（コンクリート埋設）である。僧寺中軸線は、真北から 7° 07' 01"、磁北から 0° 37' 01" それぞれ西偏する。この座標原点を中心に象限を I～IV に大別し、

中心点からの距離をN・S・E・Wで表す。さらに、本文中および図面のグリッド表示の数字は、南と西に接する基準線に与えた記号の組み合わせにより呼称する。東西基準線はアルファベット2文字で表す。1文字目は原点をAとし、60mごとにB・C・D…とふり、2文字目はその内を3mごとに20区に分けA~Tとふっている。南北基準線は数字で表し、原点を0として以下東西ともに3mごとに1・2・3…とふった。

なお、遺跡記号はMK（武蔵国分寺の略）に1~IVの各象限を続けたものに、調査次数を付して表示している。

上記以外の市内遺跡の座標は世界測地系の第9系を用いている。ただし、その基準点は平成23年3月11日の東北地方太平洋沖地震の影響を受けて変動しているが、従来の測量成果簿を使用している。



### ③ 遺跡名について

遺跡名については、Na 10・19 遺跡以外の調査については、K（国分寺の略）に遺跡番号を続けたものに次数を付して表示している。

### ④ 遺構図面について

調査地点位置図・遺構図面は、図面上が座標北を示す。特記のない限り調査地点位置図は縮尺を1/2,500、土層断面図および柱状図の縮尺は1/40に統一し、スケールバーで示している。

### ⑤ 遺構番号について

遺構は遺跡ごとにほぼ発見順に連続番号を付し、下記の遺構記号を冠して表示している。また、縄文時代の遺構は遺構番号末尾にJを付し、Pは遺構記号の後ろにJを付して歴史時代の遺構と区別している。

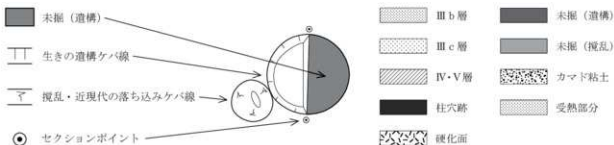
SB: 掘立柱建物    SI: 竪穴住居    SD: 溝    SK: 土坑    SF: 道路    SX: 性格不明遺構  
P: 小穴    ST: 石器集中部 (ユニット)    SR: 縄群

### ⑥ 遺構写真について

各写真キャプションに併記する(方位)は撮影した方向を示す。真上から撮影した場合は上下左右と方向を用いて方角を示している。

### ⑨ 全体図・遺構図の表現方法について

図中の記号・ライン、スクリーンパターンについては次の通りで、これ以外に使用しているパターンは個々の図で示している。なお、図の一部ではスクリーンパターンを使用していないものもある。



#### ⑨ 遺物番号について

遺物は、各調査において種別毎に連続番号を付し、下記の遺物記号を冠して表示する。

【歴史時代】土器類 PH；土師器 PK；須恵器 PL；土師質土器 PN；灰軸陶器 PT；中近世陶器

瓦 埴 類 KC；男瓦 KD；女瓦

金属製品 MM；釘鉄製品 MY；鉄滓

【縄文時代】土器類 JE；中期前半 JF；中期後半 JG；後期 JJ；時期不明

石器類 AN；スタンプ形石器

#### ⑩ 遺物の表現方法について

遺物のスクリーン・トーン・の指示は次のとおりである。



#### ⑪ 遺物の縮尺について

縮尺は次のとおり統一し、スケールバーで示している。また、写真図版についても、おおよね次のスケールに統一している。

土器類：1/3 瓦類：1/4 金属製品：1/2 縄文時代石器：1/3

#### ⑫ 遺物観察表について

遺物の記述については一覧表とし、原則として図面番号順に列記してある。遺物観察表における法量のうち、完存しているものは括弧なしで全長数値を表し、( ) は残存数値、( ( ) ) は復元数値を表す。「-」は計測できないものを表す。

#### ●報告書で使用する用語と図面の見方について

国分寺市では、市民サービス等の向上の一環として、わかりやすい埋蔵文化財年報の作成に取り組み、平成19年度版から改編を重ねている。ここでは、報告書の内容を少しでも多くの方々に理解いただけるよう、一般的には使用されない埋蔵文化財の用語や、⑨で示した図面の見方について解説する（⑨も参照）。

遺 構 … 遺跡中に残されている不動性に富む人間集団の痕跡。集落では、住居・建物・倉庫・井戸などを指す。可動性のある遺物とは区別される。

遺 物 … 人間集団が残した可動性に富む物質で、遺構とともに遺跡を構成する。石器・土器・陶磁器・木器・骨角器、金属器など様々な道具や装飾品を指す。

堅 穴 住 居 … 地面を掘りくぼめて床を敷き、支柱を立てて屋根をかける構造の建物。縄文時代以来の一般的な住居として中世まで使用されている。床面には炉・カマド・柱穴などがあり、床面は硬く踏み固められている。堅穴構造の建物であっても住居以外の用途（工房など）に使用されていた可能性も想定されることから「堅穴建物」とも呼ばれる。

ト レ ン チ … 埋蔵文化財包蔵地内で、掘削を伴う工事が埋蔵文化財に影響を及ぼす範囲を対象に設定した発掘調査区、および試掘坑。

未 掘 … 検出された遺構を平面形のみ確認して掘削をしていない箇所。

攪 乱 … 近現代以降に掘り込まれ、地山（自然堆積土）や遺物包含層、遺構等をかき回して壊している状態。耕作などによる削り・掘り込みや、地下埋設物（水道・ガス）のために掘り込まれた穴・溝等も含まれる。

遺構ケバ線 … 遺構の平面図に加える線。遺構の上端（遺構の掘り込み始点）から、遺構の下端（遺構の底面）に向かって掘り込まれている様子を示す。

攪乱ケバ線 … 攪乱の掘り込みの様子を示す。

セッポウト … 遺構が構築されてから埋没するまでの過程を土層の堆積状況によって判断するために遺構を断ち割り、土層観察面を設定した地点。



## 国分寺市遺跡調査会構成員名簿

平成 28 年 2 月 1 日現在

### 役員および監事

会 長	坂詰秀一	国分寺市文化財保護審議会会長
副 会 長	星野亮雅	国分寺市文化財保護審議会副会長
理 事	井澤邦夫	国分寺市長
理 事	富山謙一	国分寺市教育委員会委員長
理 事	松井敏夫	国分寺市教育委員会教育長
理 事	北原 進	国分寺市文化財保護審議会委員
理 事	遠藤慈郎	国分寺市文化財保護審議会委員
理 事	福嶋 司	国分寺市文化財保護審議会委員
理 事	波田健二	東京都教育庁地域教育支援部管理課長
専務理事	本橋信行	国分寺市教育委員会教育部長
監 事	峯岸桂一	元国分寺市社会教育委員
監 事	伊藤敏行	東京都教育庁地域教育支援部管理課統括課長代理

### 武蔵国分寺跡調査・研究指導委員会

委 員 長	坂詰秀一	(考 古 学) 立正大学名誉教授
委 員	藤井恵介	(建 築 史) 東京大学大学院工学系研究科教授
委 員	佐藤 信	(古 代 史) 東京大学大学院人文社会系研究科教授
委 員	酒井清治	(考 古 学) 駒澤大学文学部教授
委 員	松井敏也	(保存科学) 筑波大学人間総合科学研究科准教授

### 事務局

事務局長	島崎進一	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課長
事務局員	松本 徹	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課文化財保護係長
事務局員	吉田澄音	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課文化財保護係嘱託
事務局員	熊木正好	国分寺市遺跡調査会

### 調査団

団 長	坂詰秀一	立正大学名誉教授
主任調査員	依田亮一	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係長
調 査 員	中道 誠	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課文化財保護係
調 査 員	増井有真	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係
調 査 員	中元幸二	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係嘱託
調 査 員	島田智博	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係嘱託

# 本文目次

序 .....	1
例言 .....	3
凡例 .....	4
国分寺市遺跡調査会構成員名簿 .....	7
本文目次	
挿図目次	
表目次	
第1章 埋蔵文化財行政のあらまし .....	11
第2章 平成26年度に実施した発掘調査 .....	22
第1節 遺跡の概要 .....	22
第2節 調査の概要 .....	26
(1) 武蔵国分寺跡第700次調査 .....	26
(2) 武蔵国分寺跡第701次調査 .....	33
(3) 武蔵国分寺跡第702次調査 .....	38
(4) 武蔵国分寺跡第703次調査 .....	48
(5) 武蔵国分寺跡第705次調査 .....	50
(6) 花沢西遺跡 (No.8 遺跡) 第23次調査 .....	62
(7) 花沢西遺跡 (No.8 遺跡) 第24次調査 .....	64
(8) 殿ヶ谷戸北遺跡 (No.20 遺跡) 第7次調査 .....	67
(9) No.29 遺跡第3次調査 .....	72
(10) 恋ヶ窪東遺跡 (No.57 遺跡) 第23次調査 .....	74
第3章 小 結 .....	77
報告書抄録 .....	79
奥付	

## 挿 図 目 次

- 第 1 図 国分寺市の地形模式図
- 第 2 図 国分寺崖線と湧水
- 第 3 図 №.148 立会状況 (1)
- 第 4 図 №.148 立会状況 (2)
- 第 5 図 №.3 立会状況
- 第 6 図 №.6 立会状況
- 第 7 図 №.23 立会状況
- 第 8 図 №.33 立会状況
- 第 9 図 №.70 立会状況
- 第 10 図 №.73 立会状況
- 第 11 図 №.106 立会状況
- 第 12 図 №.205 立会状況
- 第 13 図 武蔵国分寺跡伽藍配置模式図
- 第 14 図 恋ヶ窪東遺跡・花沢西遺跡周辺の地形概略図
- 第 15 図 平成 26 年度調査地点位置図
- 第 16 図 MKIV-700 調査地位置図
- 第 17 図 MKIV-700 調査区全景 歴史時代  
確認面 (東から)
- 第 18 図 MKIV-700 調査区全景 縄文時代  
確認面 (東から)
- 第 19 図 調査区土層柱状図
- 第 20 図 MKIV-700 調査区全体図
- 第 21 図 MKIV-700 出土遺物実測図 (歴史時代)
- 第 22 図 MKIV-700 出土遺物写真 (歴史時代)
- 第 23 図 MKIV-700 出土遺物実測図 (縄文時代)
- 第 24 図 MKIV-700 出土遺物写真 (縄文時代)
- 第 25 図 MKIII-701 調査地位置図
- 第 26 図 MKIII-701 調査区全景・SX351 完掘状況  
(南から)
- 第 27 図 SX351 検出状況 (南から)
- 第 28 図 MKIII-701 調査区全体図
- 第 29 図 SX351 平面図
- 第 30 図 武蔵国分尼寺と周辺の発掘調査状況
- 第 31 図 SX351 断面図
- 第 32 図 MKIII-701 出土遺物実測図 (歴史時代)
- 第 33 図 MKIII-701 出土遺物写真 (歴史時代)
- 第 34 図 MKIV-702 調査地位置図
- 第 35 図 MKIV-702 調査区全体図
- 第 36 図 MKIV-702 A トレンチ土層断面図
- 第 37 図 SB238 平面図・エレベーション図
- 第 38 図 SB238 断面図
- 第 39 図 B トレンチ 土層柱状図
- 第 40 図 A トレンチ全景 (西から)
- 第 41 図 B トレンチ全景 (南から)
- 第 42 図 SI820 平面図
- 第 43 図 SI820・821 断面図
- 第 44 図 B トレンチ 平面図
- 第 45 図 SK3436・3437、P-2 土層断面図
- 第 46 図 P-2 断面 (東から)
- 第 47 図 MKIV-702 出土遺物実測図  
(歴史時代・縄文時代)
- 第 48 図 MKIV-702 出土遺物写真  
(歴史時代・縄文時代)
- 第 49 図 SB238-1 断面 (南から)
- 第 50 図 SB238-2 断面 (南から)
- 第 51 図 SI820 床面検出状況 (北から)
- 第 52 図 SI820・821 床面検出状況 (東から)
- 第 53 図 SK3436 断面 (西から)
- 第 54 図 SK3437 断面 (西から)
- 第 55 図 SI820・821 断面 (東から)
- 第 56 図 P-1 断面 (東から)
- 第 57 図 MK I-703 調査地位置図
- 第 58 図 MK I-703 調査区全景 (西から)
- 第 59 図 MK I-703 調査区全景 (東から)
- 第 60 図 MK I-703 調査区全体図
- 第 61 図 MK I-703 調査区土層断面図
- 第 62 図 MK III-705 調査地位置図
- 第 63 図 MK III-705 調査区全体図
- 第 64 図 SD431・432 平面図
- 第 65 図 SD431 断面図
- 第 66 図 北・南トレンチ 断面図
- 第 67 図 北トレンチ西端 土層断面図 (北から)
- 第 68 図 南トレンチ西端 土層断面図 (南から)
- 第 69 図 SD432 断面図
- 第 70 図 北トレンチ SD432 断面 (南から)
- 第 71 図 中央トレンチ SD432 断面 (北から)
- 第 72 図 南トレンチ SD432 断面 (北から)
- 第 73 図 MK III-705 出土遺物実測図  
(歴史時代) 1
- 第 74 図 MK III-705 出土遺物写真 (歴史時代) 1
- 第 75 図 MK III-705 出土遺物実測図  
(歴史時代) 2
- 第 76 図 MK III-705 出土遺物写真 (歴史時代) 2

- 第77図 北トレンチ東側全景（東から）  
 第78図 北トレンチ西側全景（西から）  
 第79図 中央トレンチ全景（西から）  
 第80図 南トレンチ全景（東から）  
 第81図 北トレンチSD431 全景・断面（南から）  
 第82図 北トレンチSD432 全景（西から）  
 第83図 中央トレンチSD431 断面（南から）  
 第84図 南トレンチSD431 全景・断面（南から）  
 第85図 K 8-23 調査地位置図  
 第86図 Aトレンチ全景（南から）  
 第87図 Bトレンチ全景（東から）  
 第88図 Bトレンチ土層断面（南から）  
 第89図 K 8-23 調査区全体図  
 第90図 土層柱状図および周辺調査区の土層  
 第91図 K 8-24 調査地位置図  
 第92図 調査区全景（東から）  
 第93図 調査風景 遺構確認  
 第94図 K 8-24 調査区全体図  
 第95図 調査区土層柱状図  
 第96図 トレンチ北側断面（南から）  
 第96図 K 8-24 出土遺物実測図  
 第97図 K 8-24 出土遺物実測図（縄文時代）  
 第98図 K 8-24 出土遺物写真（縄文時代）  
 第99図 K 20-7 調査地位置図

- 第100図 調査区全景（北から）  
 第101図 調査区西壁 土層断面（東から）  
 第102図 K 20-7 調査区全体図  
 第103図 調査区 土層断面図（西壁）  
 第104図 K 20-7 出土遺物実測図（縄文時代）  
 第105図 K 20-7 出土遺物写真（縄文時代）  
 第106図 トレンチ南側土層堆積状況（東から）  
 第107図 調査風景  
 第108図 K 29-3 調査地位置図  
 第109図 Aトレンチ全景（南から）  
 第110図 Bトレンチ全景（南から）  
 第111図 K 29-3 調査区全体図  
 第112図 調査区土層柱状図  
 第113図 K 57-23 調査地位置図  
 第114図 調査区 土層断面図（西壁）  
 第115図 調査区完掘状況（北から）  
 第116図 調査区完掘状況（東から）  
 第117図 K 57-23 調査区全体図  
 第118図 旧石器時代確認状況（北から）  
 第119図 縄文時代完掘状況（西から）  
 第120図 調査区 土層断面図（西壁）  
 第121図 PJ-1・2 断面図  
 第122図 K 57-23 出土遺物実測図（縄文時代）  
 第122図 K 57-23 出土遺物写真（縄文時代）

## 表 目 次

- 第1表 平成26年度の届出・通知の指示事項と割合  
 第2表 届出・通知および調査件数  
 第3表 発掘調査面積の推移  
 第4表 平成26年度 届出・通知および  
 立会記録等一覧（1）  
 第5表 平成26年度 届出・通知および  
 立会記録等一覧（2）  
 第6表 平成26年度 届出・通知および  
 立会記録等一覧（3）  
 第7表 平成26年度 届出・通知および  
 立会記録等一覧（4）  
 第8表 平成26年度 届出・通知および  
 立会記録等一覧（5）

- 第9表 平成26年度 届出・通知および  
 立会記録等一覧（6）  
 第10表 平成26年度 届出・通知および  
 立会記録等一覧（7）  
 第11表 MKIV-700 遺物観察表  
 第12表 MKIII-701 遺物観察表  
 第13表 MKIV-702 遺物観察表  
 第14表 MKIII-705 遺物観察表  
 第15表 K 8-24 遺物観察表  
 第16表 K 20-7 遺物観察表  
 第17表 K 57-23 遺物観察表

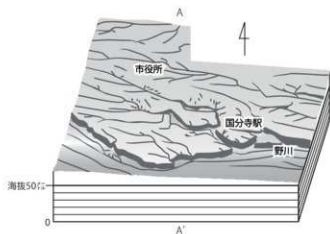
## 第1章 埋蔵文化財行政のあらまし

**国分寺市の埋蔵文化財** 国分寺市は、通称「ハケ」と呼ばれる国分寺崖線を境として、地形的に北と南に分けられています。国分寺崖線は、古多摩川が武蔵野台地を10万年以上の歳月をかけて削りとって形成された河岸段丘の連なりを指し、東西の長さは約30kmにわたります。北と南の標高差（崖高）は10～20mを測ります。崖面には樹林や湧水などの豊かな自然環境が見られ、この崖線上を武蔵野段丘、崖下を立川段丘と呼んでいます。立川段丘は約4～5万年前に形成されましたが、本多谷・殿ヶ谷戸谷・さんや谷・恋ヶ窪谷のようないくつもの開析谷があり、崖線下から湧く水はこれらの谷を通って集まり野川となります。こうした起伏に富む豊かな自然環境のもと、野川を中心に市内には人類が日本列島に住み始めた旧石器時代以来の生活痕跡が多く残されています。そして、奈良時代には、市名の由来となった武蔵国分寺が国分寺崖線を背にして建立されました。

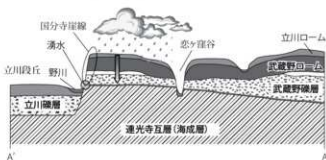
先人がこの土地に残した遺構や遺物（埋蔵文化財）を保存・活用し、現在を生きる私たちの文化的向上に役立てていくことは大切なことです。「文化財保護法」（以下「法」という）では、国や地方公共団体に対し、遺跡である「埋蔵文化財を包蔵する土地」（以下「包蔵地」という）を的確に把握し、周知の徹底に努めるように求めています（法第95条第1項）<sup>※1</sup>。国分寺市では、現在約50カ所の包蔵地が確認されています。そのうち、武蔵国分寺跡の中枢部周辺と、東山道武蔵路の一部については、国の史跡に指定されています。

**包蔵地内での土木工事** 包蔵地の範囲内で土木工事を行う場合には、埋蔵文化財保護の観点から、法に基づいて着手しようとする日の60日前までに届出（法第93条第1項）<sup>※2</sup>、もしくは通知（法第94条第1項）<sup>※3</sup>を行う必要があります。届出（通知）は国分寺市教育委員会を通して東京都教育委員会に到達され、工事が埋蔵文化財に与える影響を考慮して必要な措置が都から届出者に対して指示されます。

市内では、地表からおおよそ40～100cm下に遺構が眠っており、工事がこれより深い場合は埋蔵文化財の保存に影響が及ぶ可能性があります。その影響が軽微な場合には、市職員の立会のもとに工事を行います（立会調査）。埋蔵文化財が壊される可能性がある



第1図 国分寺市の地形模式図



第2図 国分寺崖線と湧水

判断される場合、遺跡の状況を探る確認調査を行い、その結果、事業者と協議の上でやむを得ず開発により遺跡を壊すことになった場合には、事前に記録保存調査を行います（発掘調査・事前調査）。その費用については原因者に負担をお願いしています。

**国指定史跡と現状変更** 史跡とは、貝塚・古墳・都城・旧宅・その他の遺跡で我が国にとって歴史上又は学術上価値の高いものを指し、国や自治体によって指定されます。国分寺市内には国によって指定された史跡武蔵国分寺跡 附東山道武蔵路跡があり、国分寺市では郷土の歴史を語り継ぐよりどころとして、そして国民共有の貴重な財産として保存・整備・活用するための事業を推進しています。この史跡内で工事などによって現状を変更する場合には、文化庁長官の許可を受けなければなりません（法第125条）<sup>※4</sup>。また、同工事によって地下を掘削する場合は、さらに埋蔵文化財発掘の届出もしくはは通知の提出が必要となります。

**【文化財保護法】抜粋（昭和25年5月30日法律第214号・最終改正 平成23年5月2日法律第37号）**

**※1（埋蔵文化財包蔵地の周知）第95条第1項**

国及び地方公共団体は周知の埋蔵文化財包蔵地について、資料の整備その他その周知の徹底を図るために必要な措置の実施に努めなければならない。

**※2（土木工事のために発掘に関する届出及び指示）第93条第1項**

土木工事その他埋蔵文化財の調査以外の目的で、貝塚、古墳その他の埋蔵文化財を包蔵する土地として周知されている土地（以下「周知の埋蔵文化財包蔵地」という。）を発掘しようとする場合には、前条第1項の規定を準用する。この場合において同項中「30日前」とあるのは、「60日前」と読み替えるものとする。（調査のための発掘に関する届出、指示及び命令）第92条第1項

土地の埋蔵されている文化財（以下「埋蔵文化財」という。）について、その調査のため土地を発掘しようとする者は、文部科学省の定める事項を記載した書面をもって、発掘に着手しようとする日の30日前までに文化庁長官に届け出なければならない。

**※3（国の機関等が行う発掘に関する特例）法第94条第1項**

国の機関（中略）が前条第1項に規定する目的で周知の埋蔵文化財包蔵地を発掘しようとする場合には、同条の規定を適用しないものとし、当該国の機関等は、当該発掘に係る事業計画の策定に当たって、あらかじめ文化庁長官にその旨を通知しなければならない。

**※4（現状変更等の制限及び原状回復の命令）第125条**

史跡名勝天然記念物に関しその現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をしようとするときは、文化庁長官の許可を受けなければならない。ただし、現状変更については維持の措置（中略）、保存に影響を及ぼす行為については影響の軽微である場合は、この限りではない。

**届出・通知の件数** 近年の埋蔵文化財の届出（通知）は、おおむね約170～190件で推移してきましたが、平成24・25年度では200件を超え、平成26年度も同様に200件を超えました。平成26年度における史跡の現状変更許可申請書（法第125条）5件のうち、1件は武蔵国分寺跡史跡保存整備工事に伴って国分寺市教育委員会が申請したものです。

平成26年度における届出（通知）に対する確認調査・発掘調査の指示は合わせて13件ありましたが、このうち2件（発掘調査・確認調査各1件）は次年度に調査を行いました。

**第1表 平成26年度の届出・通知の指示事項と割合**

指示内容内訳	件数	割合
発掘調査	7	3.3%
確認調査	6	2.8%
立会調査	199	93.9%
慎重工事	0	0

※緊急工事の後日届出5件を除く。

平成26年度に実施した調査のうち、補助金による調査は前年度分の届出3件（MK700次、K8-23次、K29-2次）、平成26年度分の届出7件（MK701次、MK702次、MK703次、MK705次、K8-24次、K20-7次、K57-23次）の計10件となっています。このほかに国分寺市教育委員会と民間調査会社、開発事業者の三者で協定を締結し、開発事業者が費用を負担して、民間調査会社（法第92条による）が実施した発掘調査が1件（K57-22次）、開発事業者が費用を負担し、国分寺市教育委員会が主体となって実施した確認調査が2件（K5-6次、K57-24次）、発掘調査が1件（K2-94次）、そして国分寺市が費用を負担して行った学術調査が1件（MK704次）ありました。

第2表 届出・通知および調査件数

		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
埋蔵文化財発掘の届出 法第93条		151	146	170	184	193
埋蔵文化財発掘の通知 法第94条		38	42	49	39	23
埋蔵文化財発掘調査の届出 法第92条		0	0	0	0	1
史跡・名勝現状変更許可申請 法第125条		4	2	7	4	5
発掘調査件数	国分寺市遺跡調査会（委託）	22	20	24	11	11
	民間調査会社（三者協定）	0	0	0	0	3

※遺跡調査会委託のうち1件は学術調査。

**発掘調査面積の推移** 補助金による調査面積は、年度によって差がみられます。平成26年度は、約205㎡の調査を実施しましたが、これは平成23・24年度とほぼ同じ面積です。一方で、開発事業者負担による調査は、ここ数年ありませんでしたが、平成26年度は包蔵地内での比較的大きな開発に伴って、合計で4,000㎡を超える調査がありました。このうち、本書では補助金による調査の成果を報告します。

第3表 発掘調査面積の推移

単位：㎡ 小数点以下切り捨て

			平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
土木工事等に 伴う調査	事業者負担による調査	民間企業負担	28	0	0	0	4,255
		公共機関負担	0	0	4,000	326	0
	補助金による 調査	発掘調査	146	146	94	216	23
		確認調査	290	50	155	360	182
	試掘調査	0	40	7	0	0	
土木工事等に伴う調査面積合計			464	236	4256	902	4,460
学術調査	国分寺市負担による調査	試掘・確認調査	0	0	0	0	21
史跡保存 整備事業 に伴う調査	補助金による 調査	事前遺構 確認調査	749	505	314	0	0

なお、国分寺市では事前遺構確認調査の成果をもとに、史跡武蔵国分寺跡（僧寺）を歴史公園として開園するための整備工事を進めています。また、市域の貴重な文化財を保護し、後世に伝えていくために、発掘調査以外にも文化財の公開・普及活動など様々な事業を行っています。発掘調査によって出土した土器や瓦は、武蔵国分寺跡資料館や文化財資料展示室（市立第四中学校内）などで展示しています。

また、刊行した報告書や普及書は資料館や図書館、市役所オープンナー等でご覧することができます。

第4表 平成26年度 届出・通知および立会記録等一覧(1)

No.	日付	条	申請地	申請工事内容	指示内容	立会実施日	立会記録・調査次数・備考
1	H26.4.7	93条	東元町3-8-13	個人住宅	立会調査	H26.5.8	GL-150cmまで掘削、一部に地山を確認。ほぼ表土。
2	H26.4.3	93条	南町1-12-16	水道	立会調査		—
3	H26.4.8	93条	西志ヶ窪1-20-22	電気	立会調査	①H26.5.20 ②H26.7.9	①仮住新設。GL-100cmまで掘削、既設柱の覆乱。②旧電柱の引き抜き。GL-50～60cm掘り下げ。クレーン車にて引き抜き、覆乱。
4	H26.4.8	93条	内藤1-1-10	分譲住宅	立会調査	H26.5.22	表土。
5	H26.4.8	93条	南町3-22-12	電気	立会調査	H26.12.22	—
6	H26.4.9	94条	泉町2-102-9	その他開発 (地盤調査)	立会調査	①H26.6.17 ②H26.6.23 ③H26.6.25	ボーリング調査。①GL-180～200cmまで盛土・表土、GL-200cmからソフトローム。②GL-220cmまで盛土・表土。GL-220cmからソフトローム。③GL-180～190cmまで盛土・表土、GL-190cmからソフトローム。盛土・表土は、砂利・ガラ・捨てコン等が含まれる。
7	H26.4.11	93条	東元町4-9-18	電気	立会調査	H26.7.2	立会を実施。
8	H26.4.11	93条	日吉町1-43-8の一部	分譲住宅	立会調査		—
9	H26.4.15	93条	南町3-8-20	電気	立会調査	H26.8.21	工事中止。
10	H26.4.15	93条	東元町3-14-20	水道	立会調査	H26.5.8	立会を実施。
11	H26.4.17	93条	東元町4-16-2	集合住宅	立会調査	H26.7.25	GL-40cmまで掘削、ローム土主体の表土。
12	H26.4.18	93条	西元町2-16-11	集合住宅	確認調査		Ⅲ-702次調査 ※1
13	H26.4.18	93条	泉町1-6	個人住宅	発掘調査		Ⅲ-703次調査
14	H26.4.18	93条	東元町3-12-16	ガス	立会調査	H26.4.28	表土。
15	H26.4.21	93条	西志ヶ窪3-2-22	個人住宅	立会調査	H26.7.15	基礎根切。GL-20～30cmまで掘削、表土。
16	H26.4.22	93条	西元町4-5-18	分譲住宅	確認調査		Ⅲ-701次調査
17	H26.4.22	93条	西元町2-12-14	ガス	—		緊急工事。
18	H26.4.22	93条	西元町2-13-13	ガス	—		緊急工事。
19	H26.4.24	94条	東元町3-33-26	精設置	立会調査	H26.5.1	工事中止。
20	H26.4.25	93条	東元町3-33-24	分譲住宅	立会調査	①H26.9.25 ②H26.11.5	①基礎根切。GL-120cmまで掘削、盛土厚く、最深部でも表土。②基礎根切、表土施工。
21	H26.5.19	93条	西元町2-10～12	ガス	立会調査	H26.6.17	既設管の覆乱。東山道にかかると部分は、過去の工事によりコンクリートで固められていたことを確認。
22	H26.5.13	93条	東元町2-18-34の一部	分譲住宅	立会調査	H26.6.25	3棟とも深いところでGL-100cmほど掘削、表土。
23	H26.5.16	93条	東元町3-2-16	集合住宅	立会調査	H26.6.19	表土。
24	H26.5.20	93条	西志ヶ窪1-30-9	個人住宅	立会調査	H26.7.7	基礎根切。GL-25cmほど掘削、表土。
25	H26.5.19	93条	西志ヶ窪1-17-1	集合住宅	立会調査	H26.9.5	GL-40cmほどの表土下に20cmほどのロームと黒色土のミックスされた土を確認。前身の建物の表土。道路に接する一部でもGL-60cmまで表土。
26	H26.5.19	93条	西元町1-13～2-14	ガス	立会調査	H26.5.29	既設管の覆乱。
27	H26.5.19	93条	南町2-1-17	ガス	立会調査	H26.6.4	GL-110cmまで掘削、覆乱。
28	H26.5.20	93条	内藤2-22	水道	立会調査	H26.5.26	GL-85cmまで掘削、覆乱。
29	H26.5.27	93条	東元町2-18-34の一部	個人住宅	立会調査	H26.6.16	表土。
30	H26.5.27	93条	本町2-24-9	ガス	立会調査	H26.6.13	GL-90cmまで掘削、表土。
31	H26.5.28	94条	西元町2-6-22	雨水槽設置	立会調査	H26.6.5	GL-75cmまで掘削、覆乱。
32	H26.5.28	93条	東元町3-14-20	ガス	立会調査		—
33	H26.5.29	94条	西元町1-13	公共汚水槽設置	立会調査	H26.6.2	GL-100cmまで掘削、覆乱。
34	H26.5.30	93条	西元町3-28-22	ガス	立会調査	H26.6.11	GL-90cmまで掘削、覆乱。



第5表 平成26年度 届出・通知および立会記録等一覧(2)

No.	日付	条	申請地	申請工事内容	指示内容	立会実施日	立会記録・調査回数・備考
35	H26.6.2	93条	本町1-4-11	ガス	立会調査	H26.6.13	GL-80cmまで掘削、既設管の視乱。工事区域の西部にGL-60cmにⅢb層を部分的に確認。
36	H26.6.3	93条	本町1-4-11	水道	立会調査	H26.6.11	GL-85cmまで掘削、道路面GL-20cmで比較的厚いⅢb層が堆積、Ⅲc層・Ⅳ層が比較的良好に堆積する。
37	H26.6.4	93条	南町3-26-21	ガス	—	H26.5.19	緊急工事。GL-200cmまで確認、表土。
38	H26.6.6	93条	東元町3-4-11	集合住宅	立会調査	H26.8.7	基礎根切。GL-15cmまで掘削、表土。
39	H26.6.6	93条	本町4-24～21	ガス	立会調査	—	—
40	H26.6.6	93条	日吉町1-43～44	ガス	立会調査	—	—
41	H26.6.6	93条	光町3-13	下水道 公共施設	立会調査	H26.7.3	GL-270cmまで掘削。
42	H26.6.11	93条	東元町3-14-20	電気	立会調査	H26.6.25	視乱。
43	H26.6.11	93条	東元町3-1-9	ガス	立会調査	H26.6.23	GL-80cmまで掘削、視乱。
44	H26.6.13	93条	東元町3-26	電気	立会調査	① H26.7.23 ② H26.8.1	① GL-150cmまで掘削、さらに250cmまで砂利の埋め土の視乱。② GL-250cm深さまで厚い砂利による埋土視乱。
45	H26.6.17	93条	南町2-1-17	水道	立会調査	① H26.7.7 ② H26.7.8	① GL-290cmまで掘削、一部表土。表土下はローム。 ② GL-200cmまで掘削、表土。表土下はローム。
46	H26.6.17	93条	東元町3-33-25	ガス	立会調査	① H26.6.30 ② H26.7.1	① 表土。GL-100cmで、一部にⅢc層確認。② 表土。
47	H26.6.17	93条	日吉町2-25-7	水道	立会調査	H26.6.20	GL-80cmまで掘削、既設管の視乱。
48	H26.6.23	93条	西元町2-10-15	水道	立会調査	H26.6.26	既設管の視乱。
49	H26.6.20	93条	西志ヶ窪3-35	電気	立会調査	H26.7.14	新設。GL-250cmまで掘削。
50	H26.6.23	93条	西元町2-16-11	水道	立会調査	H26.7.7	GL-150cmまで掘削、底部でⅣ層を確認。ほぼ既設管の視乱。
51	H26.6.23	93条	西志ヶ窪3-13-5	ガス	立会調査	—	—
52	H26.6.23	93条	東元町4-3-8	雨水槽設置	立会調査	H26.7.3	浸透マス設置。GL-70cmまで掘削。
53	H26.6.24	93条	日吉町1-44先	電気	立会調査	① H26.7.4 ② H26.7.7	新設。GL-270cmまで掘削。
54	H26.6.27	93条	南町1-12-28	個人住宅	発掘調査		K20-7次調査
55	H26.7.1	93条	西志ヶ窪3-2-21、 3-2-22の一部	集合住宅	立会調査	H27.5.9	武蔵野線のトンネル工事の際に開口工事が行われた場所のため視乱。
56	H26.7.2	93条	南町2-1-17	ガス	立会調査	H26.7.10	新設。掘削区北側には路面砂石下にⅢc層が残る。南側は盛土が厚くロームが抽出。
57	H26.7.8	93条	日吉町1-43-8の一部	分譲住宅	立会調査	H26.7.30	2棟ともGL-50cmまで掘削、表土。
58	H26.7.12	93条	泉町1-6-7	水道	立会調査	H26.7.15	GL-150cmまで掘削、ほぼ既設管の視乱。
59	H26.7.16	93条	東元町3-12	電気	立会調査	H26.9.8	新設。掘削箇所は3カ所。最大GL-200cmまで掘削。
60	H26.7.17	93条	東元町3-8-13	ガス	立会調査	H26.7.30	3カ所(北側道路・北側個人住宅内・東側道路)ともにGL-100cmまで掘削。北側道路・北側個人住宅内で、一部にⅢb・Ⅲc層を抽出。その他は表土。
61	H26.7.22	93条	東元町1-12-3先	電気	立会調査	H26.8.11	電柱の底面にあたるGL-200cmまで厚い視乱。
62	H26.7.22	94条	泉町2-9	道路	立会調査	H26.10.27	GL-1400cmまで掘削。
63	H26.7.23	93条	東元町3-4-	土地造成	立会調査	—	—
64	H26.7.24	93条	内藤1-1-10	ガス	立会調査	H26.8.1	既設管の視乱。
65	H26.7.24	93条	南町3-26	ガス	—	—	緊急工事。
66	H26.7.24	93条	西元町4-2	ガス	—	—	緊急工事。
67	H26.7.28	93条	南町1-9-15	個人住宅	立会調査	H26.8.21	立会を実施。

第6表 平成26年度 届出・通知および立会記録等一覧(3)

No.	日付	条	申請地	申請工事内容	指示内容	立会実施日	立会記録・調査回数・備考
68	H26.7.28	93条	南町1-9-15	個人住宅	立会調査	①H26.7.28 ②H26.8.21	①擁壁撤去。全面に盛土(100～200cm程度)。GL-30cm下でローム面。同面にコンクリート敷きを確認。②基礎以下の掘削立会。表土。
69	H26.7.28	93条	本町4-4-5-6	集合住宅	発掘調査		K57-22調査。届出92条に伴う調査を実施。報告書は別に発行。
70	H26.7.25	94条	泉町2-2	その他建物(特別支援学校仮設校舎)	立会調査	①H26.10.8 ②26.10.15	基礎根切。①・②GL-40cmまで掘削。表土。
71	H26.7.29	93条	本町1-4-9	宅地造成	立会調査	H26.9.9	現状のGLは道路より100cmほど高い。道路セツトバック部分の壁で土層を確認。GL-60～70cmまで表土。II層はなく。表土下でIII層を30cmほど確認。部分的に下水道等の視認あり。敷地西側に接する道路は、III層まで掘削されている可能性あり。
72	H26.7.30	93条	東元町3-12-6	上下水道 集水桝設置	立会調査	①H26.8.6 ②H26.8.7 ③H26.8.19	①下水道管。既設管の視認。②集水桝新設(4カ所)。視認。③上下水道管。工事区域の北半分は黒色土がGL-100まで堆積。南半分はGL-40cmでハードローム。
73	H26.7.29	94条	南町1-12～13先	水道	立会調査	H26.10.27	立会を実施。
74	H26.7.30	93条	本町4-16-6	電気	立会調査	H27.2.23	立会を実施。
75	H26.8.4	93条	東元町3-2-18	ガス	立会調査	H26.8.8	立会を実施。
76	H26.8.4	93条	東元町3-12～5	ガス	立会調査		—
77	H26.8.6	93条	西志ヶ窪3-11-29-30	個人住宅	立会調査	H26.10.14	表土。
78	H26.8.7	93条	南町2-7-5	ガス	立会調査	H26.9.1	GL-70cmまで掘削。既設管の視認。
79	H26.8.8	94条	泉町2-2	電気	立会調査	H26.9.16	GL-210cmまで掘削。GL-80cmまで、ガラを含む表土。その下にソフトローム。
80	H26.8.8	93条	泉町1-5-25先	電気	立会調査	H26.9.9	新設。GL-260cmまで掘削。
81	H26.8.8	93条	東元町4-20-19	集合住宅	立会調査	H26.10.24	GL-30cmまで掘削。GL-15cmでIII層を検出。非常に浅い深度で地山となる。残土から複数の奈良・平安時代の土器片を確認(現地保存)。
82	H26.8.8	94条	西志ヶ窪3-36先	水道	立会調査	H26.8.18	既設管の視認。
83	H26.8.11	93条	西志ヶ窪3-11-41	個人住宅	立会調査		GL-40cmまで掘削。表土。
84	H26.8.12	94条	東元町4-1-18	雨水桝設置	立会調査	H26.8.27	3カ所中2カ所で立会実施。GL-70cmまで掘削。表土(盛土)。
85	H26.8.12	94条	西元町3-16-2	雨水桝設置	立会調査	H26.9.1	2カ所。GL-60cmまで掘削。表土。
86	H26.8.12	94条	西元町3-23-20	雨水桝設置	立会調査	H26.8.26	3カ所。GL-70cmまで掘削。表土。
87	H26.8.21	93条	南町3-26-33	個人住宅兼工場 又は店舗	立会調査	H27.2.9	GL-30cmでIII層(20cmの層厚)。以下ソフトローム。
88	H26.8.26	93条	内藤2-1-53	個人住宅	立会調査	H26.9.30	GL-40cmまで掘削。表土。
89	H26.8.26	93条	泉町2-2	上下水道	立会調査	H26.8.28	既設管の視認。
90	H26.8.27	94条	南町2-16	その他開発 (ボーリング調査)	立会調査	H26.9.1	擁壁工事に先立つボーリング調査(現状変更に伴う埋蔵文化財の立会)。口径15cm。GL-50cmまで表土。GL-60cmでIII層が、GL-100cmでローム層。
91	H26.8.28	93条	西志ヶ窪3-14-9	分譲住宅	立会調査	①H26.10.29 ②H26.11.6	①建物根切。表土。 ②給排水工事。表土。
92	H26.8.28	93条	本町4-24-36	ガス	立会調査		—
93	H26.9.1	93条	西志ヶ窪1-17-11	ガス	立会調査	H26.9.12	GL-100cmまで掘削。既設管の視認。
94	H26.9.5	93条	西志ヶ窪3-16先	電気	立会調査		—
95	H26.9.5	93条	東志ヶ窪1-280先	電気	立会調査		—
96	H26.9.8	93条	東元町4-16-2	ガス	立会調査	H26.10.25	—
97	H26.9.9	93条	東志ヶ窪1-280	その他開発 (建物解体)	立会調査	H26.11.28	当該建物建設時で大部分が削平。ベタ基礎の直下で地山を確認し、ハードローム層を検出したが、層は不明。周囲のGL-300cmまで掘削。

第7表 平成26年度 届出・通知および立会記録等一覧(4)

No.	日付	条	申請地	申請工事内容	指示内容	立会実施日	立会記録・調査回数・備考
98	H26.9.12	93条	本町1-4-9	個人住宅	立会調査	H26.12.4	GL-20cmまで掘削、表土。
99	H26.9.16	93条	西元町2-15-2	分譲住宅	立会調査	H26.10.20	GL-20cmまで掘削、表土。
100	H26.9.16	93条	泉町1-5~11	ガス	立会調査	—	—
101	H26.9.18	93条	泉町1-9-7 西	水道	立会調査	H26.10.7	撤去と新設。南北各1カカ所掘削。北側はGL-180cmまで掘削、既設管の覆乱。南側は西面で一部表土(レンガ、コンクリ、砂)下、GL-30cmほどでIII層を確認、GL-100cmでソフトルーム。
102	H26.9.19	93条	東元町3-4-11	集合住宅	立会調査	H26.11.18	表土。
103	H26.9.22	93条	西元町2-11-41	ガス	立会調査	H26.9.24	撤去、GL-120cmまで掘削、既設管の覆乱。現地は掘削を伴う工事が複数回実施されており、ガラ・砂・盛土が厚く堆積。
104	H26.9.24	93条	西元町4-2	ガス	立会調査	H26.10.14	尼寺に隣接する南側の道路。工事範囲の最東範囲、GL-100cmほど掘削、既設管の覆乱。
105	H26.9.26	93条	西元町3-18-20	分譲住宅	立会調査	H26.10.24	GL-30cmまで掘削、表土。
106	H26.9.26	93条	泉町3-17	店舗新築	立会調査	H26.10.27	GL-150cmまで掘削、-50cmほどでIII層以下の地山。
107	H26.9.26	93条	西元町3-3-26	分譲住宅	立会調査	H26.11.10	GL-20cmまで掘削、II層と思われる黒色土の上面を確認。
108	H26.9.26	94条	本町4-22 付近	道路	立会調査	—	—
109	H26.10.3	93条	内藤2-1-31	個人住宅	立会調査	H26.11.17	擁壁撤去工事のため地山の検出なし。
110	H26.10.6	93条	西元町2-15-2	水道	立会調査	—	—
111	H26.10.7	94条	泉町2-7 先~10 先	水道	立会調査	H26.10.23	4カ所中2カ所で立合、GL-100cmまで掘削、既設管の覆乱。
112	H26.10.8	93条	本多1-1 以下未定	集合住宅	立会調査	H26.11.19	根切・擁壁工事、表土。
113	H26.10.9	93条	東元町4-13-30	個人住宅	立会調査	H26.12.25	III層上面に盛土、表土。
114	H26.10.10	93条	本町4-2803-3	その他建物 (モジュールーム)	確認調査	—	K8-24 次調査
115	H26.10.14	93条	西志ヶ窪3-2-22	電気	立会調査	—	—
116	H26.10.14	93条	東元町3-3-33	水道	立会調査	H26.10.15	GL-200cmまで掘削、既設管の覆乱。
117	H26.10.14	93条	南町2-14-6	水道	立会調査	H26.10.23	GL-120cmまで掘削、既設管の覆乱。
118	H26.10.14	93条	東元町3-17-1	個人住宅	立会調査	H27.2.26	立会を実施。
119	H26.10.16	93条	泉町3-17	水道	立会調査	H26.12.29	立会を実施。
120	H26.10.17	93条	南町3-26	電気	立会調査	H26.11.6	既設の撤去、GL-200cmまで掘削、GL-20cmまで砕石表土、その下のIII層は遺存。
121	H26.10.21	93条	西志ヶ窪1-24-1	分譲住宅	立会調査	H26.11.25	GL-15cmまで掘削、表土。
122	H26.10.21	93条	西元町3-6-29	分譲住宅	立会調査	—	—
123	H26.10.22	93条	本町2-2-12	ガス	立会調査	H26.11.5	新設、GL-120cm、既設管の覆乱。
124	H26.10.22	93条	西志ヶ窪1-30-9	ガス	立会調査	H26.11.22	—
125	H26.10.22	93条	南町3-9 ほか	水道 ポンプ設置	立会調査	H26.12.15	既設管の覆乱。
126	H26.10.23	93条	東元町4-14 先	電気	立会調査	H26.11.21	新設、表土。
127	H26.10.24	93条	西元町2-7-13	ガス	立会調査	H26.12.19	立会を実施。
128	H26.10.27	93条	東元町3-33 他1件	ガス	立会調査	H26.11.4	新設、表土。
129	H26.10.27	93条	内藤2-1-31	水道	立会調査	—	—
130	H26.10.28	93条	東元町4-1732-4	分譲住宅	立会調査	H26.12.16	基礎根切。工事自体はGL-20cmまで掘削。北東部分を一部掘削し、GL-35cmでIII層を確認。
131	H26.10.29	93条	西志ヶ窪1-9 他4件	ガス	立会調査	—	—
132	H26.11.4	93条	西元町2-16-13	ガス	立会調査	—	—
133	H26.11.7	93条	西志ヶ窪3-2-22	ガス	立会調査	H26.11.14	立会を実施。
134	H26.11.7	93条	東志ヶ窪1-217	電気	立会調査	H27.3.6	—

第8表 平成26年度 届出・通知および立会記録等一覧(5)

No.	日付	条	申請地	申請工事内容	指示内容	立会実施日	立会記録・調査回数・備考
135	H26.11.7	93条	東志ヶ窪1-280	電気	立会調査	H27.3.6	—
136	H26.11.7	93条	泉町2-2	電気	立会調査	H27.1.19	既設の覆乱。
137	H26.11.14	93条	西志ヶ窪1-17-1	ガス	立会調査	H26.12.2	立会を実施。
138	H26.11.14	94条	泉町3-17	電話	立会調査	H26.12.18	既設の覆乱。
139	H26.11.17	93条	東元町4-14-30	分譲住宅	立会調査	H27.1.13	GL-15cmまで掘削、表土。
140	H26.11.18	93条	西元町3-6-29	水道	立会調査	—	—
141	H26.11.18	93条	西元町3-3-26	水道	立会調査	—	—
142	H26.11.18	93条	泉町3-17	電気	立会調査	H27.1.23	既設の覆乱。
143	H26.11.20	93条	本町4-3先	水道	立会調査	H26.12.1	既設管の覆乱。
144	H26.11.21	93条	東元町4-9-16	個人住宅	立会調査	H27.2.27	立会を実施。
145	H26.11.21	93条	東元町3-12から14	ガス	立会調査	—	—
146	H26.11.25	93条	東元町1-28-22	個人住宅・ガス・水道・電気	立会調査	H27.2.3	新設。GL-70cmまで掘削、層厚40cm程度の盛土の下に薄いIV層が堆積し、ソフトロームを確認。
147	H26.11.27	93条	西元町3-18-20	ガス	立会調査	H26.12.18	新設。GL-120cmほど掘削、既設管の覆乱。
148	H26.11.28	94条	西元町2-1	水道	立会調査	①H26.12.17 ②H27.1.8 ③H27.1.16 ④H27.1.26	整備工事に伴う立会。 ※1 末尾に掲載
149	H26.12.2	93条	南町1-12-28	下水道	立会調査	H26.12.11	新設。表土。
150	H26.12.3	93条	東元町4-14-36	水道	立会調査	H27.1.8	立会を実施。
151	H26.12.3	93条	東元町4-14-30	水道	立会調査	H27.1.6	路盤下は田層が約30cm程度堆積、その下に良好なIV層を確認。
152	H26.12.5	94条	泉町2-2	電話	立会調査	H27.1.9	アスファルト下の砂利を除去すると厚い盛土、表土。
153	H26.12.8	93条	東元町4-14-36	分譲住宅	立会調査	H27.2.10	表土。
154	H26.12.8	93条	泉町2-2	水道	立会調査	—	—
155	H26.12.8	93条	西元町3-3-26先	電気	立会調査	H27.1.14	既設の覆乱。
156	H26.12.10	93条	内藤2-50～52-1	個人住宅	立会調査	H27.1.7	表土。
157	H26.12.11	93条	西元町2-15	ガス	立会調査	H26.12.18	新設。GL-90cmまで掘削、既設管の覆乱。
158	H26.12.12	93条	東元町4-14-36	電気	立会調査	H27.1.14	既設の覆乱。
159	H26.12.12	93条	東元町3-12-15	電気	立会調査	H27.1.8	GL-40cmでIII層、GL-50cmでIV層上面。
160	H26.12.19	93条	泉町3-1-6	個人住宅	立会調査	H27.3.4	立会を実施。
161	H26.12.19	93条	東志ヶ窪1-207-3、217-6、216-3、215-1、217-1、218-1、218-2、220-2、219、233-、231-2、234、230-2、239-、240、234-2、235-1、237-3、237-1、235-2、237-2、237-6280-1の一部	集合住宅解体 宅地造成 公園造成	発掘調査	—	届出92条に伴う調査。平成26年度中に予備調査1,200㎡。報告は別に刊行。
162	H26.12.22	93条	西元町2-2545-24	個人住宅	立会調査	H27.1.13	給排水。表土。
163	H26.12.25	94条	本町4-12～23	水道	立会調査	H27.1.9	既設管の覆乱。
164	H27.1.5	93条	西元町3-3-20	分譲住宅	立会調査	H27.3.12	立会を実施。
165	H27.1.6	93条	泉町1-10	電気	立会調査	—	—
166	H27.1.6	93条	泉町2-7、2-11	電気	立会調査	H27.2.18	GL-125cmまで掘削。
167	H27.1.9	93条	西元町2-9-13	電気(試験)	立会調査	—	—
168	H27.1.9	93条	西元町2-6	ガス	立会調査	H27.2.28	立会を実施。
169	H27.1.13	93条	東元町4-14-30	個人住宅	立会調査	H27.2.25	立会を実施。
170	H27.1.13	93条	本町4-22	ガス	立会調査	—	—

第9表 平成26年度 届出・通知および立会記録等一覧(6)

No.	日付	条	申請地	申請工事内容	指示内容	立会実施日	立会記録・調査回数・備考
171	H27.1.13	93条	本町4-24	ガス	立会調査		—
172	H27.1.14	93条	内藤2-1	水道	立会調査	H27.2.3	アスファルト・砂利直下でハードルーム層を確認。工事区域の北側は水道管の本管があり深く掘削。
173	H27.1.14	93条	西元町4-5～2	ガス	立会調査	H27.3.18	既設管の覆乱。
174	H27.1.14	93条	東志ヶ窪1-280	その他建物 (純水設備付属 壁屋)	発掘調査		K2-94次調査。報告書は別に刊行。
175	H27.1.15	93条	東元町1-37	水道	立会調査	H27.2.17	既設管の覆乱。
176	H27.1.15	93条	東元町3-12-15	水道	立会調査	H27.2.4	GL-50cmでハードルーム。既設管の覆乱。
177	H27.1.15	93条	西志ヶ窪3-14-9	ガス	立会調査	H27.1.19	既設管の覆乱。
178	H27.1.19	93条	西元町2-17-16	集合住宅	発掘調査		平成27年度に発掘調査を実施。
179	H27.1.20	93条	南町3-30-7	ガス	立会調査	H27.1.29	—
180	H27.1.23	93条	南町3-8-11	水道	立会調査	H27.2.5	既設管の覆乱。
181	H27.1.26	93条	南町2-7-3	個人住宅	立会調査		—
182	H27.1.26	93条	西元町4-9-8	ガス	立会調査	H27.1.28	既設管の覆乱。
183	H27.1.26	93条	南町1-12-28	ガス	立会調査	H27.2.9	既設管の覆乱。
184	H27.1.27	93条	本町4-21-29	個人住宅兼店舗	確認調査		K57-23次調査。
185	H27.1.27	93条	西志ヶ窪3-13-12	ガス	立会調査		—
186	H27.1.30	93条	東元町3-12	電気	立会調査	H27.2.18	新設。GL-100cmまで掘削。表土。
187	H27.1.30	93条	泉町2-2	ガス	立会調査		—
188	H27.2.2	94条	南町3-9、東元町3-19、26	道路	立会調査	H27.3.24	立会を実施。
189	H27.2.3	93条	西元町2-4	宅地造成	発掘調査		MR III-705次調査。
190	H27.2.4	93条	東元町3-33	ガス	立会調査	H27.2.7	—
191	H27.2.6	93条	南町3-8-11	ガス	立会調査	H27.2.10	既設管の覆乱。
192	H27.2.9	94条	東元町4-13	電話	立会調査	H27.3.11	移設。既設の覆乱。
193	H27.2.13	94条	西元町1-13-30	照明撤去・新設	立会調査		—
194	H27.2.20	93条	東元町4-14-30	ガス	立会調査	H27.3.11	既設管の覆乱。
195	H27.2.20	93条	内藤1-1(国立市東3-33)	ガス	立会調査	H27.3.20	立会を実施。
196	H27.2.23	93条	西元町3-3	下水	立会調査	H27.4.2	立会を実施。
197	H27.2.23	93条	東元町3-1404-18	分譲住宅	立会調査	H27.3.27	立会を実施。
198	H27.2.23	93条	東元町3-1404-19	分譲住宅	立会調査	H27.3.27	立会を実施。
199	H27.2.23	93条	東元町3-1404-20	分譲住宅	立会調査	H27.3.27	立会を実施。
200	H27.2.27	94条	西元町1-13	汚水枘設置	立会調査		—
201	H27.3.2	93条	東元町4-14-30	ガス	立会調査	H27.3.19	立会を実施。
202	H27.3.4	93条	本町4-2864、2875-1	分譲住宅・宅地造成	確認調査		K57-24次調査。報告書は別に刊行。
203	H27.3.5	93条	東元町4-20	ガス	立会調査	① H27.3.20 ② H27.3.25	①②立会を実施。
204	H27.3.5	93条	内藤2-1-31	ガス	立会調査	H27.3.17	立会を実施。
205	H27.3.5	93条	東元町3-14-11の一部	個人住宅	立会調査	H27.5.28	2号棟。GL-40cmまで掘削、すでに削平されており。表土がIV層以下のローム。
206	H27.3.10	93条	光明1-1	ガス	立会調査	H27.3.23	立会を実施。
207	H27.3.10	93条	本町4-2874-15	個人住宅	立会調査	① H27.6.9 ② H27.6.9	①基礎根切。GL-45cmまで掘削。黒色土層。但し既に基礎工事済で底面にセメント敷後の立会。 ②基礎根切。GL-55cmまで掘削。黒色土層。ローム層には達せず。
208	H27.3.11	93条	東元町4-14-36	ガス	立会調査		—

第10表 平成26年度 届出・通知および立会記録等一覧(7)

No.	日付	条	申請地	申請工事内容	指示内容	立会実施日	立会記録・調査次数・備考
209	H27.3.16	93条	東元町3-889-10の一部	個人住宅	立会調査	H27.5.28	2号棟、GL-40cmまで掘削、南側の道路側に接続する部分だけGL-70cmまで掘削するが、すでに削平されており、表土がIV層以下のローム。
210	H27.3.16	93条	東元町2-17	水道	立会調査	① H27.5.11 ② H27.12.14 ③ H27.12.15	① 試掘工事、GL-120cmまで掘削、GL-70～80cmで地山、既設管の覆乱。 ② GL-160cmまで掘削、GL-70cmまで黒褐色、以下は地山、ほぼ既設管の覆乱。 ③ GL-160cmまで掘削、覆乱(黒土・赤土の混合)、包蔵地外になる市民農園前で完全に既設管の覆乱。
211	H27.3.16	93条	東元町1-27～1-28	水道	立会調査	H27.5.11	試掘工事、GL-100cmまで掘削、GL-70～80cmで地山、ほぼ既設管の覆乱。
212	H27.3.20	93条	東元町3-1376-1,2,7,8,9、東元町3-4	集合住宅	確認調査		平成27年度に確認調査を実施。
213	H27.3.23	93条	東元町3-33-26	ガス	立会調査		既設管の覆乱。
214	H27.3.24	93条	東元町4-13	ガス	立会調査		—
215	H27.3.25	93条	東恋ヶ窪1-280	その他開発(建屋解体)	立会調査		—
216	H27.3.26	93条	内藤2-22-29	ガス	立会調査		—
217	H27.3.31	93条	東元町3-12-6	分譲住宅	立会調査		—

※1 グレー20%の網掛け部分は本書掲載の発掘調査に伴う届出(平成25年度届出を除く)

※2 No.148 整備工事に伴う立会調査(記録)

①散水検設。GL-120cmまで掘削。表土以下、IV層まで確認多くは塚山内、東西方向の塚穴の一部にGL-15cm以下で地山を検出。また、南北方向の塚穴はほぼGL-15cm以下はすべて地山で、GL-30cmのレベルで川原石や瓦片、土器片が出土したが、遺構に伴っておらず、表土内の遺物である(遺物現地保存)。また、同穴のGL-80cmの位置に、瓦片(遺存状態のよい破片)が数枚重なって出土し、これが旧GLの可能性があったが、現状のまま保存した。

② GL-60cmまで掘削。表土にガラが多い。遺構は検出されず、遺物は①と同様の対処を行った。

③②の南側。浅いところでGL-35cmでIV層を検出した。その上の表土中には瓦片が多数包含されている。遺構はなく、二次的に移動された遺物と考えられる。

④③の南側。表土より多数の瓦片が出土したが遺構は伴っていない。完形の半分ほどの瓦片もあり、文字瓦や燈・宇瓦の一部も出土していることから、これまで未検出であった遺物である可能性が高い。ただし、遺構は伴っておらず、耕作などで出土した大量の瓦を投げ込んだ瓦溜りのような可能性も考えられる。いずれにせよ時期は不明であるが、III層より上の出土である。遺物は現地保存とした。



第3図 No.148 立会状況(1)



第4図 No.148 立会状況(2)



第5図 No.3 立会状況



第6図 No.6 立会状況



第7図 No.23 立会状況



第8図 No.33 立会状況



第9図 No.70 立会状況



第10図 No.73 立会状況



第11図 No.106 立会状況



第12図 No.205 立会状況

## 第2章 平成26年度に実施した発掘調査

### 第1節 遺跡の概要

平成26年度に実施した個人住宅建設に伴う発掘調査および個人住宅・民間開発事業等に伴う確認調査は、武蔵国分寺跡（No.10・19遺跡）5地区、花沢西遺跡（No.8遺跡）2地区、殿ヶ谷戸北遺跡（No.20）1地区、No.29遺跡1地区、恋ヶ窪東遺跡（No.57遺跡）1地区の計10カ所である。調査を実施した各遺跡の概要は次の通りである。

#### 武蔵国分寺跡（No.10・19遺跡）

武蔵国分寺は、天平13（771）年に聖武天皇により発布された国分寺建立詔で、全国60余国に設置された国分寺の一つである。古代の官道である東山道武蔵路を挟んで東に僧寺、西に尼寺が配置され、遺跡の範囲は東西約1.5km、南北は国分寺崖線を挟んで約1kmに及ぶ。遺跡は現在の西元町1～4丁目、東元町3・4丁目、泉町1・2丁目、西恋ヶ窪1丁目に所在する。僧寺は「寺院地」・「伽藍地」・「中柱部」の三重に、尼寺は「伽藍地」・「中柱部」の二重に区画され、その周囲の寺院に関連する遺跡を含めて「寺地」と称している。前者がNo.10遺跡、後者がNo.19遺跡に該当し、寺院跡のほか、東山道武蔵路、推定鎌倉街道などの道路跡が確認されている。

#### 花沢西遺跡（No.8遺跡）

花沢西遺跡は、国分寺市南町三丁目24・26～30、本町四丁目2～6、泉町一丁目14、東恋ヶ窪一丁目付近に所在する旧石器時代・縄文時代の集落跡、弥生時代の散布地である。遺跡は開析谷で舌状に画された野川左岸の武蔵野台地南西縁に立地し、JR中央線によって南北に二分されている。花沢西遺跡からは、市内で唯一、弥生時代（中期前半期）の遺物（土器3個体）が出土している。

#### 殿ヶ谷戸北遺跡（No.20遺跡）

殿ヶ谷戸北遺跡は、南町一丁目8・9・12付近に所在する旧石器時代・縄文時代（早・中期）の集落遺跡である。野川を南側に臨む武蔵野段丘に位置し、1万8千～1万5千年前位の旧石器時代を中心とした遺跡である。

#### No.29遺跡

No.29遺跡は南町一丁目14、本町一丁目3～5付近に所在する散布地である。西側は本町（国分寺村石器時代）遺跡（遺跡No.28）、東側は殿ヶ谷戸北遺跡（No.20）に隣接している。No.29遺跡、本町遺跡ともにJR中央線を跨いで南北に展開する遺跡である。

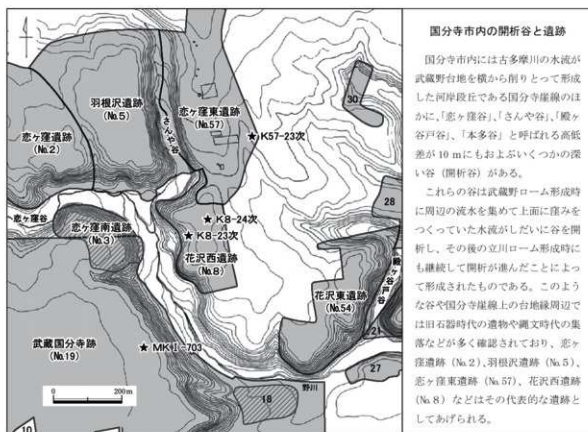
#### 恋ヶ窪東遺跡（No.57遺跡）

恋ヶ窪東遺跡は、本町四丁目4～11・14～25、東恋ヶ窪一丁目・二丁目1・2付近に所在する旧石器時代・縄文時代の集落跡である。遺跡は武蔵野段丘面に位置し西側にはさんや谷と呼ばれる開析谷（比高差12m）が南北に延び、谷を挟んだ西側には同じく旧石器時代・縄文時代の集落跡が確認されている羽根沢遺跡（遺跡No.5）がある。また、遺跡の南側は花沢西遺跡に隣接する。





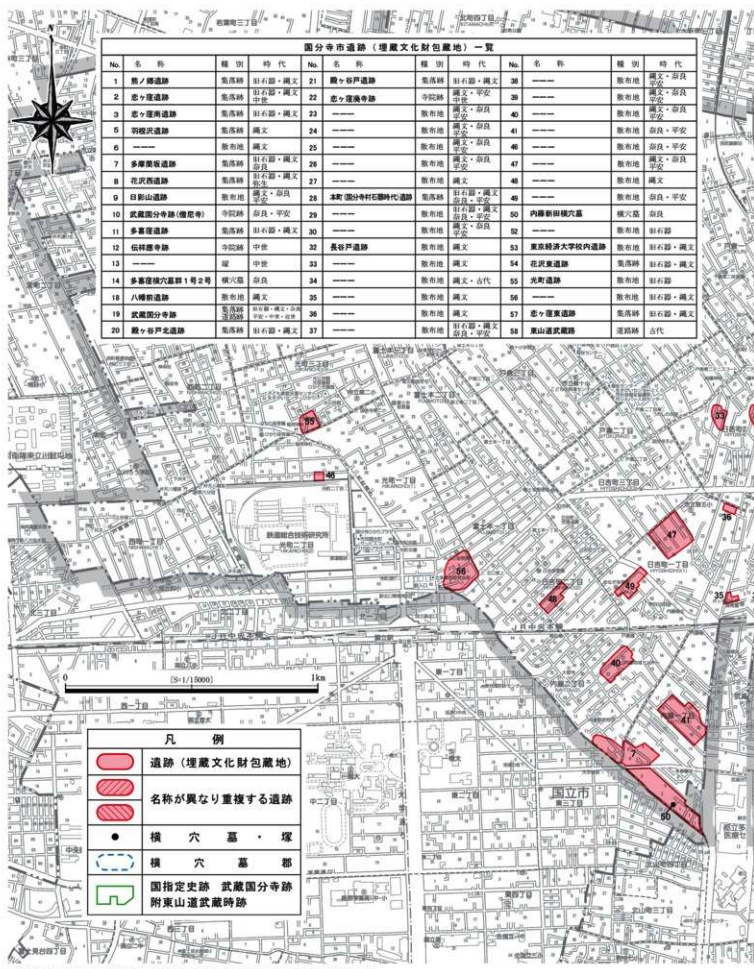
第13図 武蔵国分寺跡伽藍配置模式図

第14図 恋ヶ窪東遺跡・花沢西遺跡周辺の地形概略図  
(★は本報告書に掲載の調査地点)

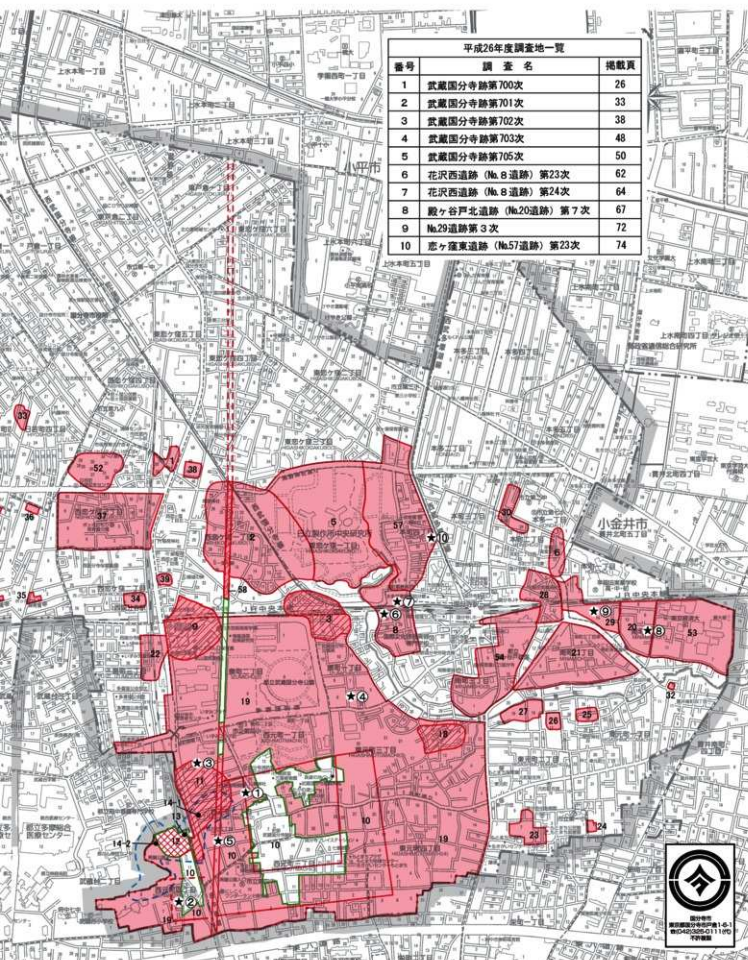
#### 国分寺市内の開析谷と遺跡

国分寺市内には古多摩川の水流が武蔵野台地を横から削りとりて形成した河岸段丘である国分寺崖線のほかに、「恋ヶ窪谷」、「さんや谷」、「殿ヶ谷戸谷」、「本多谷」と呼ばれる高低差が10 mにもおよびくつかの深い谷（開析谷）がある。

これらの谷は武蔵野ローマ形成時に周辺の流水を集めて上面に窪みをつくっていた水流がしだいに谷を開析し、その後の立川ローマ形成時にも継続して開析が進んだことによって形成されたものである。このような谷や国分寺崖線上の台地縁周辺では旧石器時代の遺物や縄文時代の集落などが多く確認されており、恋ヶ窪遺跡（No. 2）、羽根沢遺跡（No. 5）、恋ヶ窪東遺跡（No. 57）、花沢西遺跡（No. 8）などはその代表的な遺跡としてあげられる。



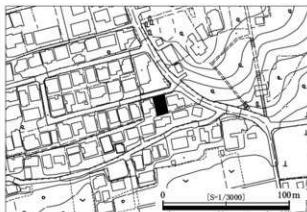
第15図 平成26年度調査地点位置図



## 第2節 調査の概要

### (1) 武蔵国分寺跡第700次調査

所在地	国分寺市西元町2-11-43		
調査原因	個人住宅	調査種別	確認調査
調査期間	平成26年4月10日～4月16日		
調査面積	6.98㎡	遺物箱数	1箱
検出遺構	なし		
主な遺物	瓦、縄文土器・石器		



第16図 MKIV-700 調査地位位置図

調査区は、武蔵国分寺跡（No.10・19）に該当する。地形的には国分寺屋敷上に立地し、武蔵国分僧寺の伽藍地西辺区画溝付近にあたる。

当該地は、国史跡武蔵国分寺跡（僧寺地区）新整備基本計画（平成14年度策定、以下「新整備基本計画」）および国指定史跡武蔵国分寺跡 附東山道武蔵路跡保存管理計画（第2次）（平成24年度策定、以下「保存管理計画」）等の諸計画において、将来的に追加指定の可能性のある場所であるため、重要な遺構・遺物等の存在を確認するための調査を実施した。調査は、地下室造成工事によって遺構が破壊される可能性のある範囲について部分的に実施した。調査面積は6.98㎡である。

現地調査は平成26年4月10日から平成26年4月16日に実施した。

調査区内は表土面より深さ約70cmまで固い盛土と表土が堆積しており、歴史時代と縄文時代の遺構確認を行ったが、いずれの時代とも遺構は検出されなかった。

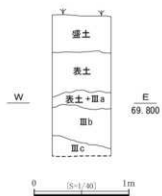
しかしながら、歴史時代の土器や瓦、縄文時代の土器・石器が少量ながら出土していることから、近隣に遺構が存在する可能性がある。



第17図 MKIV-700 調査区全景  
歴史時代確認面（東から）



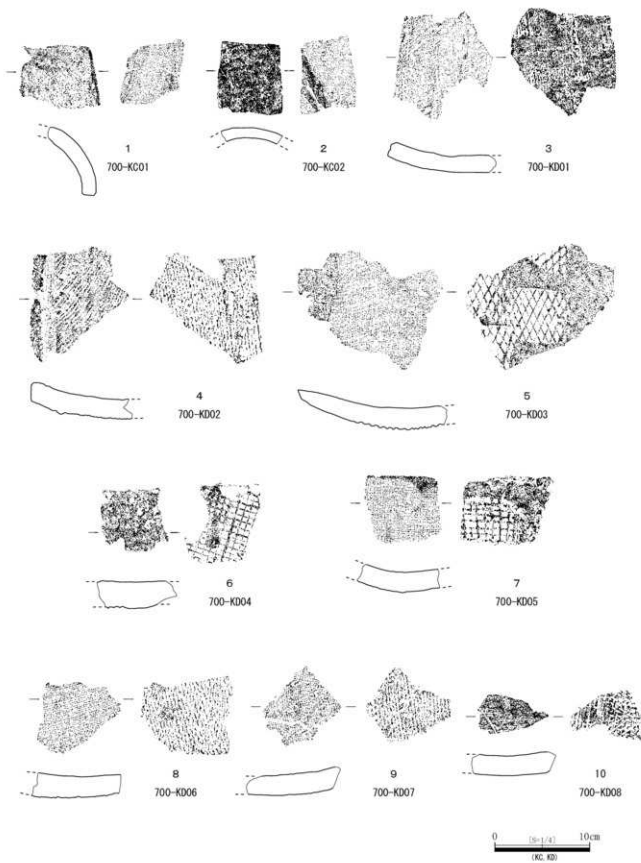
第18図 MKIV-700 調査区全景  
縄文時代確認面（東から）



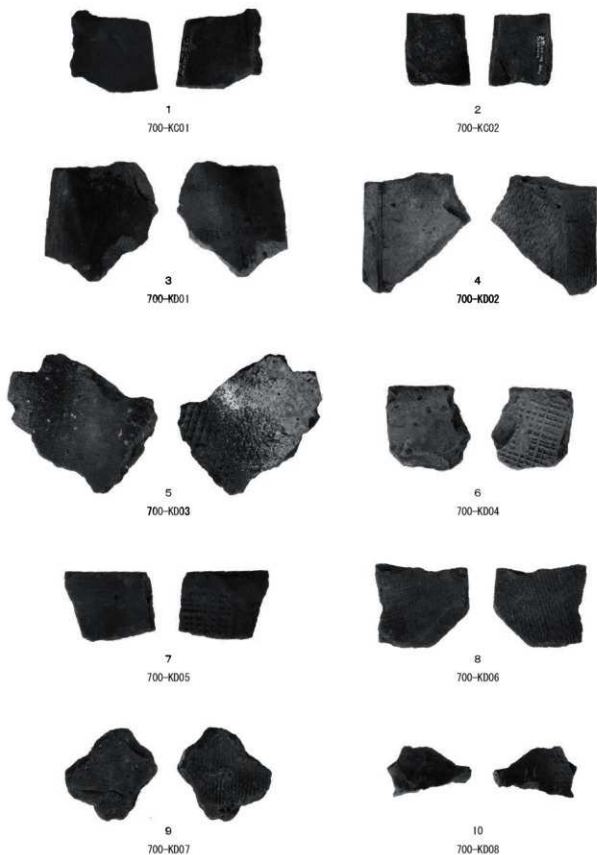
第19図 調査区土層柱状図



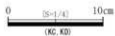
第20図 MKⅣ-700 調査区全体図



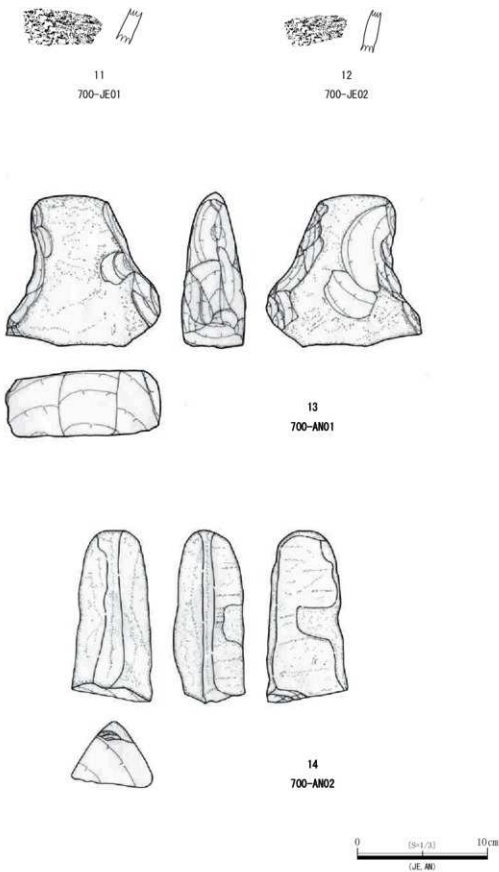
第21図 MKIV-700 出土遺物実測図(歴史時代)



第22図 MKIV-700 出土遺物写真 (歴史時代)







第23図 MKIV-700 出土遺物実測図(縄文時代)





11  
700-JE01



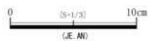
12  
700-JE02



13  
700-AN01



14  
700-AN02



第24図 MKIV-700 出土遺物写真(縄文時代)

第11表 MKIV-700 遺物観察表

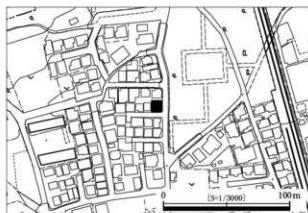
MKIV-700		歴史時代		瓦		成・整形の特徴				備考	
番号 遺物番号	出土位置	伏線 広端 全長 (cm)	厚さ (cm)	裏材		凹面		凸面			端面
				布目	特徴	叩き	特徴	特徴			
1 KD01	表土	— (8.0)	1.2	粘土 横紐	21×21	—	—	ナデ。側端縁面 取り。	側端縁面ヘラケズ リ。	無段。灰色。堅い。焼成 普通。微砂粒やや多量。 2～3mmの角礫少量。	
2 KD02	表土	— (8.6)	1.7	—	21×22	不明の指書きあ り。	—	ナデ。	—	無段。灰黄色。堅い。焼 成普通。微砂粒少量。2 ～4mmの角礫・赤スコリ ア・植物繊維微量。	
3 KD01	表土	— (12.4)	1.8	粘土板	(27×18)	側端縁面取り。	罫目 磨消し	罫目叩きの後、 ヨコヘラケズリ。	側端面調整。	桶巻作り。灰黄色。堅 い。焼成普通。微砂粒少 量。2～5mmの角礫微量。	
4 KD02	表土	— (12.6)	2.0	粘土板	(24×27)	側端縁ヘラケズ リ。側端縁付近 にある程度乾 いた後に入れた 脱脂牛切込み痕 あり。	罫目 L9本	—	側端面調整。	桶巻作り。にぶい黄褐色。 堅い。焼成普通。微砂粒 やや多量。	
5 KD03	表土	— (14.8)	2.2	—	18×22	側端縁ヘラケズ リ。	斜格子	ナデの後、斜格 子叩き。	側端面ヘラケズ リ。	灰色。堅い。焼成普通。 微砂粒やや多量。2～ 10mmの角礫少量。石灰 微量。降下物付着。粘土 やや粗い。	
6 KD04	表土	(6.6) — (8.8)	2.9	—	磨消し計 測 不可	ナデ。	正格子	正格子叩きの後、 一部ナデ。	端面ヘラケズ リ。	にぶい褐色。やや軟らか い。焼成普通。微砂粒微 量。	
7 KD05	表土	(8.6) — (7.5)	2.2	—	20×21	端縁ナデ。	正格子	正格子叩きの後、 一部ナデ。	端面ヘラケズ リ。	灰色。堅い。焼成普通。 微砂粒やや多量。石灰少 量。	
8 KD06	表土	— (9.1)	2.6	—	19×16	側端縁ナデ	罫目 L8本	—	端面ヘラケズ リ。	灰色。堅い。焼成普通。 微砂粒多量。2mmの角礫 ごく微量。粘土やや粗い。	
9 KD07	表土	— (9.8)	2.2	—	((15×21))	—	罫目 L9本	—	側端面ヘラケズ リ。	灰色。堅い。焼成普通。 微砂粒多量。2～8mmの 角礫少量。	
10 KD08	表土	— (5.5)	2.1	—	ナデ	ナデ。	罫目	罫目叩きの後、 棒叩き。	側端面ヘラケズ リ。	黄灰色。やや軟らから い。焼成普通。微砂粒やや多 量。赤スコリア微量。	

MKIV-700		縄文時代		土器		備考
番号 遺物番号	種別 器種	出土位置	口径 器高 底径 (cm)	器形の特徴	成・整形の特徴	
11 JE01	深鉢	Ⅲb層	— (2.8) —	胴部。 小片のため全体の器形は不明。	Rの縄文を地文とし、矢羽状の押し引きを 二列に施文する。	樽型Ib類(新通)。黄褐色。焼 成普通。微砂粒やや多量。黒雲 母やや多量。
12 JE02	深鉢	表土	(3.3) —	胴部。 小片のため全体の器形は不明。	ヒダ状圧痕を表面に施文する。	阿玉台前半。黒色。焼成普通。 微砂粒やや多量。粘土やや粗い。

MKIV-700		縄文時代		石器		備考			
番号 遺物番号	種別 形態	出土位置	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)		重量 (g)	遺存 状態	石材
13 AN01	スタンプ 形 石器	Ⅲb層	11.6	11.8	5.0	848	完形	砂岩	両側縁からの縦打による整形。
14 AN02	スタンプ 形 石器	Ⅲb層	13.2	6.3	5.5	497	完形	砂岩	断面三角形の棒状礫を素材とし、 磨面の加工。

## (2) 武蔵国分寺跡第701次調査

所在地	国分寺市西元町4-5-18		
調査原因	分譲住宅建設	調査種別	確認調査
調査期間	平成26年5月12日～5月16日		
調査面積	0.66 m <sup>2</sup>	遺物箱数	1箱
検出遺構	SX351		
主な遺物	瓦		



第25図 MKⅢ-701 調査地位位置図

当該地は、武蔵国分寺跡 (No.10・19) に該当する。当該地は、武蔵国分尼跡の金堂跡から南西方向へ約50mの地点にあたり、尼寺に関連する遺構や遺物が存在する可能性があり、加えて新整備基本計画および保存管理計画等の諸計画において、将来的に追加指定の可能性のある場所であることから、重要な遺構・遺物等の有無を確認するための調査を実施した。

調査は、排水管工事等によって遺構が破壊される可能性のある範囲を対象として行った。

調査面積は0.66 m<sup>2</sup>である。現地調査は平成26年5月12日から同年5月16日(実働5日)に実施した。

調査区内は、地表下約1mの深さで基本層序IV層(ソフトローム層)に達し、この面でSX351性格不明遺構が検出された。なおI層(表土・盛土)からIV層の間にII～III c層は確認されなかった。

SX351性格不明遺構(第29・31図)検出面から約30cmの深さまで確認されたが、トレンチ内の東端付近より西に向かってさらに落ち込んでいるため規模は不明である。

当調査地点は、武蔵国分尼寺跡の伽藍内に該当し、尼寺を区画する西辺掘立柱塀(推定)の内側約7mの場所に位置する。東辺の塀の内側では、塀に平行する溝が確認されており、今回検出されたSX351も同様の溝状遺構である可能性があるが、遺構は調査範囲外に広がっており、性格・全容は不明である。

遺物は遺構外の表土より歴史時代の土器小片や瓦が出土し、瓦の一つは隅切瓦(第32・33図1)である。



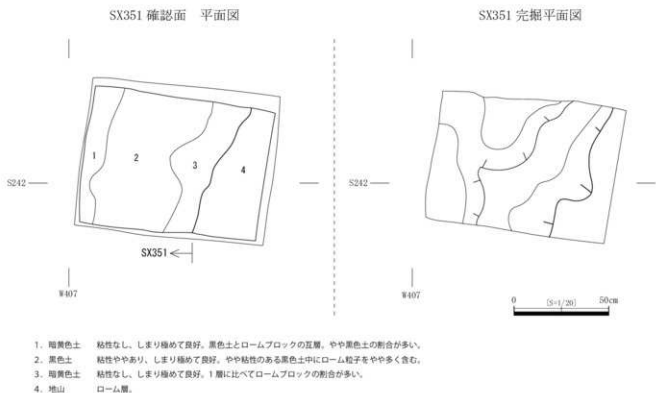
第26図 MKⅢ-701 調査区全景・SX351完掘状況(南から)



第27図 SX351検出状況(南から)

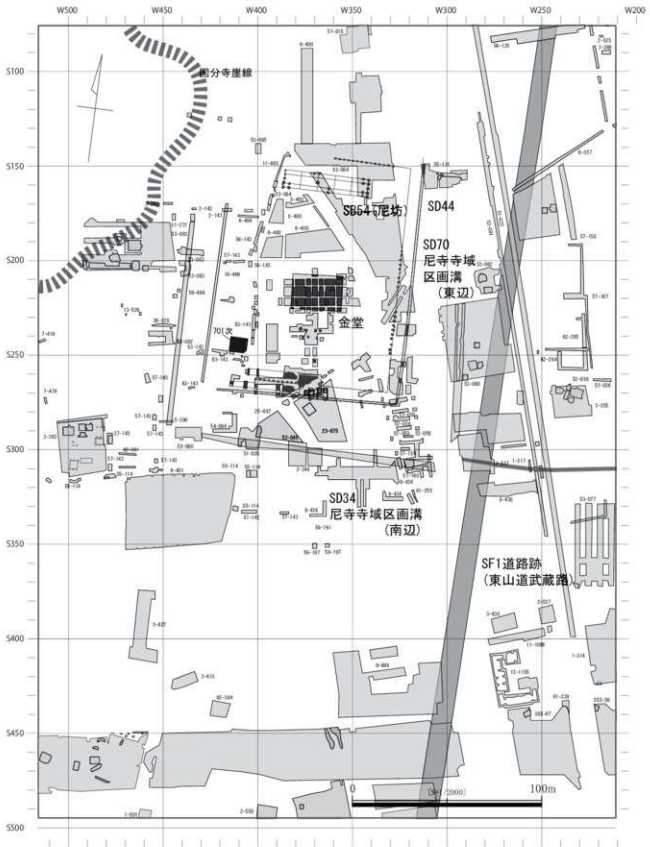


第28図 MKⅢ-701 調査区全体図



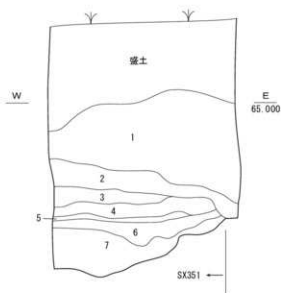
1. 暗黄色土 粘性なし、しまり極めて良好。黒色土とロームブロックの互層。やや黒色土の割合が多い。
2. 黒色土 粘性ややあり、しまり極めて良好。やや粘性のある黒色土中にローム粒子をやや多く含む。
3. 暗黄色土 粘性なし、しまり極めて良好。1層に比べてロームブロックの割合が多い。
4. 地山 ローム層。

第29図 SX351 平面図

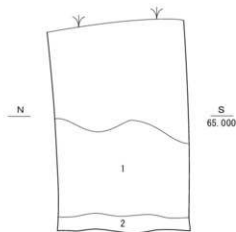


第30図 武蔵国分尼寺と周辺の発掘調査状況

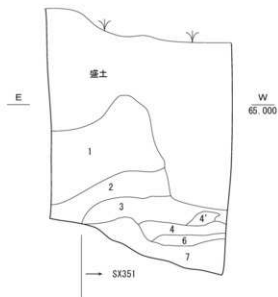
調査区北壁 SX351 土層断面図



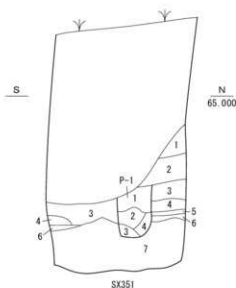
調査区東壁土層断面図



調査区南壁 SX351 土層断面図



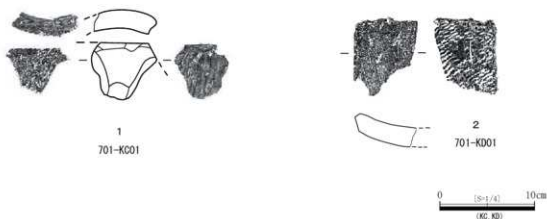
調査区西壁 SX351・P-1 土層断面図



- |          |   |
|----------|---|
| 1. 暗褐色土  | 粘性しまりなし。ローム粒子を少量含む。下層ほどロームブロックを多く含む微土。      |
| 2. 暗茶褐色土 | 粘性しまりなし。ローム粒子を多く含む。ややボソボソしている。              |
| 3. 黒色土   | 粘性なし。しまりややあり。部分的にロームブロックを含む。                |
| 4. 暗黄色土  | 粘性なし。しまりややあり。ロームブロックを主体とし、暗褐色土をしみ状に含む。      |
| 5. 黒色土   | 粘性なし。しまり良好。硬質で含有物は微量。                       |
| 6. 暗茶黒色土 | 粘性ややあり。しまり良好。硬質で西壁に近い方にローム粒子を多く含む。SX351 覆土。 |
| 7. 黄色土   | 粘性ややあり。しまり良好。硬質でブロック状のローム。SX351 覆土。         |



第31図 SX351 断面図



第32図 MKⅢ-701 出土遺物実測図(歴史時代)



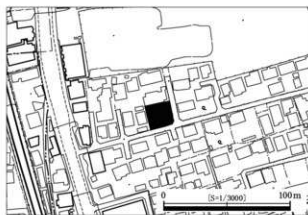
第33図 MKⅢ-701 出土遺物写真(歴史時代)

第12表 MKⅢ-701 遺物観察表

MKⅢ-701		歴史時代 瓦								
番号 遺物番号	出土位置	狭端 広端 全長 (cm)	厚さ (cm)	成・整形の特徴				備考		
				素材	凹面		凸面		端面	
				布目	特徴	叩き	特徴	特徴		
1 K001	表土	(4.7) — (6.3)	1.9	—	磨消し	側端縁面取り。 タテ指ナデ。	—	端縁面取り。ナ デ。	端面ヘラケズ リ。	隅切瓦。灰色。軽い。焼 成普通。微砂粒やや多量。 白色針状物質やや多量。 剥落部(2.5)cm。
2 KD01	表土	(6.4) — (8.6)	2.0	—	(24×24)	側端縁面取り。 狭・側端縁ナデ。	罫目 (9本)	罫目叩きの様。 一部ナデ。	側端面ヘラケズ リ。狭端面粗い 調整。	にふい黄褐色。軽い。焼 成普通。微・小砂粒少量。 赤スコリア少量。2~4 mmの角礫混量。

## (3) 武蔵国分寺跡第702次調査

所在地	国分寺市西元町2-16-11		
調査原因	集合住宅建設	調査種別	確認調査
調査期間	平成26年5月26日～6月6日		
調査面積	17.01㎡	遺物箱数	1箱
検出遺構	SB238、SI820・821、SK3436・3437、P-1・2		
主な遺物	土師器・須恵器・土師質土器・灰釉陶器・瓦・鉄釘・縄文土器		

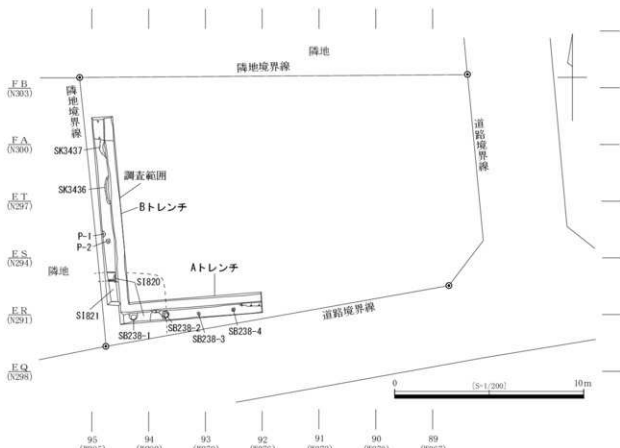


第34図 MKIV-702 調査地位位置図

当該地は、国分寺市西元町に所在し、武蔵国分寺跡（No.19）と、これに重複する縄文時代の集落跡である多喜窪遺跡（No.11）に該当する。このため当該地は、奈良・平安時代の遺構・遺物、そして縄文時代の遺構・遺物等が埋蔵している可能性があるため、給排水管の埋設を計画している範囲を対象として、確認調査を行った。

調査面積は17.01㎡である。現地調査は平成26年5月26日から6月6日（実働10日）まで実施した。

調査は、Aトレンチ（東西方向）とBトレンチ（南北方向）の2カ所を設定して行った。



第35図 MKIV-702 調査区全体図



A・Bトレンチともに、地表下約60cmの深さまで基本層序I層(表土・盛土)に覆われており、その下のIII b層において、奈良・平安時代の遺構確認を行った。なお、I層とIII b層の間層において部分的かつ小範囲でIII a層が確認された。

検出遺構は、掘立柱建物1棟(SB238)、竪穴住居2軒(SI820・821)、土坑2基(SK3436・3437)、小穴2基(P-1・2)である。遺物は、遺構内外から奈良・平安時代の土師器・須恵器・土師質土器・灰釉陶器・瓦・鉄釘、縄文時代の土器等が出土している。

**SB238 掘立柱建物(第37・38図)** Aトレンチ内で検出し、東西に並ぶ柱穴が確認された。検出された柱穴は4基で、西側の2基(SB238-1・2)の掘方は直径約40cmを測り、柱痕も確認できたが、東側の2基(SB238-3・4)は直径約20cmと小規模である。建物の柱間は約1.7mと想定され、柱穴の深さは確認面から最大で約90cm(SB238-1)を測る。

遺構は調査区外へ広がる可能性が高く、建物の規模や構造などは不明である。遺物は、SB238-1の埋土より鉄釘(第47図13)が出土した。なお、SB238はSI820を切って構築されている。

**SI820 竪穴住居(第42・43図)** Aトレンチの南西、およびBトレンチの南で検出された。検出範囲は一部であり、貼床(床面)は確認されたが、カマド及び周溝は未検出である。住居は調査区外へ広がっており、全体の規模などは不明である。住居の東端で住居内及び住居外の一部に硬化面が確認されており、出入口であった可能性がある。遺構の深さは最大で約40cmである。

遺物は、床下から土師器甕、縄文土器深鉢が出土している。SI821と切り合い、SI820が古い。

**SI821 竪穴住居(第43・44図)** Bトレンチで検出され、SI820を切って構築されている。南トレンチでは未確認のため、遺構はさらに南西方向へ展開するものと想定されるが、全容は不明である。住居内では周溝及び貼床が確認され、さらに床下から貯蔵穴が検出している。確認面から床面までの深さは約35cmである。貯蔵穴の深さは、床面より約50cmを測る。

検出状況からは、初期のSI821において貯蔵穴を設けて利用した後に、穴を埋めて床面及び周溝を形成したものと想定される。

遺物は、床直上から土師器甕が出土し、貯蔵穴から土師器・須恵器・瓦が出土している。

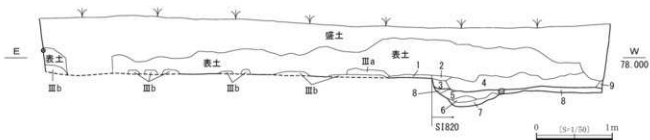
**SK3436 土坑(第45図)** Bトレンチで検出された。西辺は長さ約1.4mの隅丸方形を呈し、深さ35cm以上を測る。遺構は調査区外の東へ広がるため全容は不明である。

覆土から小片の土器が数点出土している。

**SK3437 土坑(第45図)** Bトレンチ内、SK3436の北約1mの位置で検出され、確認範囲で南北1m以上、東西40cm以上、深さ42cm以上を測る。調査区の北・東側へ広がると想定されるが、土坑の北側は後世の擾乱により、残存状況が悪く全体の規模は不明である。

覆土には焼土を多く含み、土器・瓦片を包含することから、カマドに関係する構築材や焼土を投げ入れた土坑と考えられる。

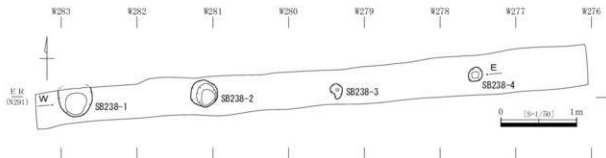
**P-1・2(第45図)** Bトレンチで検出され、P-1の覆土から須恵器の甕片が出土している。P-1は調査区の西に広がり、規模は不明である。P-2の大きさは直径約20cm、深さ約20cmを測る。



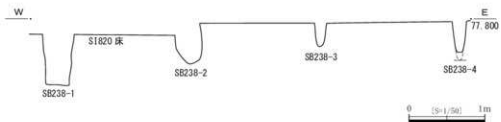
1. 暗褐色土 粘性なし、しまり部分的に良好。赤色スコリアを微量含む。
2. 暗褐色土 粘性なし、しまり極めて良好。赤色スコリアを微量含む。
3. 暗褐色土 粘性・しまりややあり。ローム粒子、暗褐色粘質土を多く含む。
4. 暗褐色土 粘性なし、しまりややあり。ローム粒子を部分的に多く含む。赤色スコリアを少量含む。S1820 腐土。
5. 暗茶褐色土 粘性ややあり、しまり良好。ローム粒子を少量含む。赤色スコリア、黄色砂質土を少量含む。粘床。
6. 暗茶褐色土 粘性・しまりややあり。ロームブロックを多く含む。
7. 黄色土 粘性・しまりあり。ロームを貼っている。
8. 暗茶褐色土 粘性なし、しまり極めて良好。赤色スコリアを少量含む。ローム粒子少量含む。粘床。
9. 暗褐色土 粘性・しまりなし。ボソボソして、ローム粒子少量含む。

第36図 MKIV-702 A レンチ土層断面図

SB238 発掘平面図



SB238 東西エレベーション図



第37図 SB238 平面図・エレベーション図

SB238-1 土層断面図

W E  
78.000



1. 暗黄色土 粘性ややあり、しまりなし。黒色土を主体とし、ローム粒子がしみ状に入る。
2. 暗黄色土 粘性ややあり、しまり良好。ロームブロックを主体とし黒色土がしみ状に入る。
3. 暗黄褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロックと茶色土の互層。
4. 暗茶色土 粘性なし、しまりなし。ローム粒子を少量含む。
5. 暗黄色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロック主体土。
6. 暗黄色土 粘性なし、しまり良好。ロームブロック主体土。
7. 黒色土 粘性なし、しまりなし。ボソボソしており含有物は微量。

SB238-2 土層断面図

W E  
77.800



1. 暗茶色土 粘性ややあり、しまりややあり。ローム粒子、ロームブロックをしみ状に含む。
2. 暗黄褐色土 粘性ややあり、しまりややあり。ロームブロックを主体とし茶褐色土が混じる。
3. 黄色土 粘性あり、しまり良好。ローム土を主体とし、部分的に黒色土が混じる。
4. 黒色土 粘性なし、しまりなし。ボソボソし、含有物は微量。

SB238-3 土層断面図

W E  
77.800



1. 暗茶色土 粘性まし、しまりなし。ボソボソしており含有物は微量。

SB238-4 土層断面図

W E  
77.800

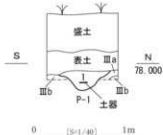


1. 暗茶色土 粘性なし、しまりややあり、比較的緻密で茶色粘質土が混じる。
2. ロームブロック主体土

0 [5:1/40] 1m

第38図 SB238 断面図

調査区Bトレンチ土層柱状図

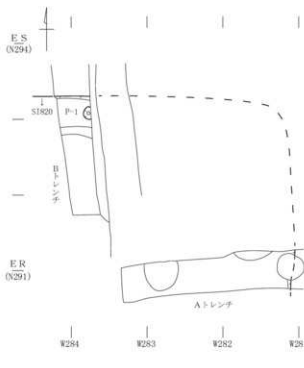


P-1

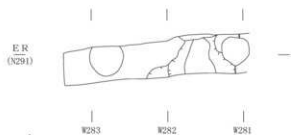
1. 暗茶色土 粘性なし、しまりややあり。赤色スコリアを極微量。ローム粒子少量。底面に暗茶色ロームブロック少量含む。土粒間にやや隙間あり。

第39図 Bトレンチ  
土層柱状図第40図 Aトレンチ全景  
(西から)第41図 Bトレンチ全景  
(南から)

S1820 使用時完掘平面図

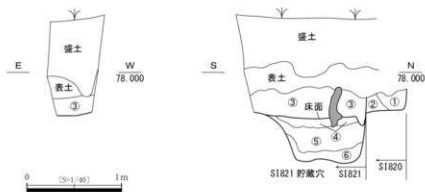


S1820 構築時完掘平面図



第42図 S1820 平面図

S1820・821 土層断面図

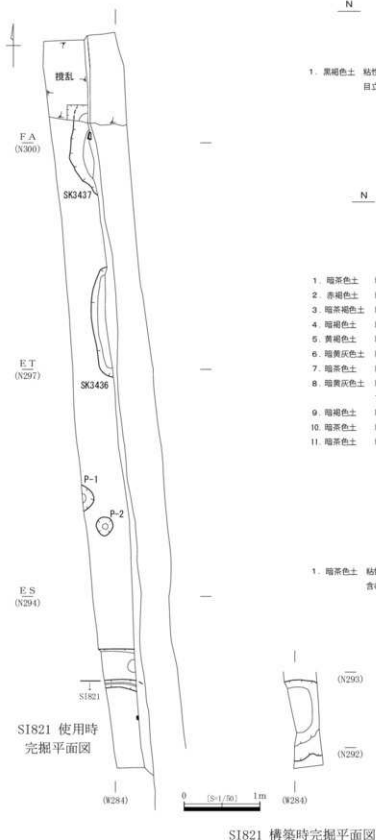


S1820・821

- |         |   |
|---------|---|
| ① 暗褐色土  | 粘性なし、しまりややあり。底部にロームブロックを含み、赤色スコリアを少量含む。S1820 覆土。                |
| ② 暗褐色土  | 粘性なし、しまりなし。土粒間に隙間が多く、ローム粒を多く含む。赤色スコリアを少量含む。S1820 覆土。            |
| ③ 暗褐色土  | 粘性ややあり、しまりややあり。部分的にローム粒子、ブロックをしみ状に含む。赤色スコリアを少量含む。住居覆土。S1821 覆土。 |
| ④ 暗茶褐色土 | 粘性ややあり、しまり良好。黄灰色粘質土を多量に含む。赤色スコリアを少量含む。粘床。                       |
| ⑤ 黒色土   | 粘性あり、しまり部分的に極めて良好。黄灰色粘質土、黄色砂質粘質土、ローム粒子を多量に含む。野廬穴埋土。             |
| ⑥ 黒色土   | 粘性ややあり、しまり良好。黄色砂質土を多く含む。底部にはロームブロックが張られている。野廬穴埋土。               |

第43図 S1820・821 断面図

Bトレンチ完掘平面図



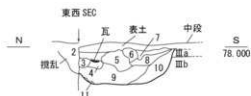
第44図 Bトレンチ 平面図

SK3436 土層断面



1. 黒褐色土 粘性なし、しまりなし、ボソボソしており、土粒間のすき間が目立つ。赤色スコリアをごく微量含む。

SK3437 土層断面図

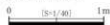


1. 暗茶色土 粘性なし、しまりややあり、焼土粒子を多く含む。
2. 赤褐色土 粘性なし、しまりややあり、焼土粒子を少量含む。
3. 暗茶褐色土 粘性なし、しまりややあり、焼土粒子、ローム粒子を多く含む。
4. 暗褐色土 粘性なし、しまりややあり、焼土ブロックとローム粒子の互層。
5. 黄褐色土 粘性ややあり、しまりややあり、焼土ブロック主体。
6. 暗黄灰色土 粘性ややあり、しまりややあり、焼土粒子と黄灰色粘質土の互層。
7. 暗茶色土 粘性なし、しまりややあり、焼土粒子を少量含む。
8. 暗黄灰色土 粘性ややあり、しまりややあり、6層と比べて黄灰色粘質土ブロックが多い。
9. 暗褐色土 粘性なし、しまりなし、焼土粒子を少量含む。
10. 暗茶色土 粘性なし、しまりなし、含有物は微量、土粒間にやや隙間あり。
11. 暗茶色土 粘性ややあり、しまりややあり、層B層の崩れた土が。

P-2 土層断面図



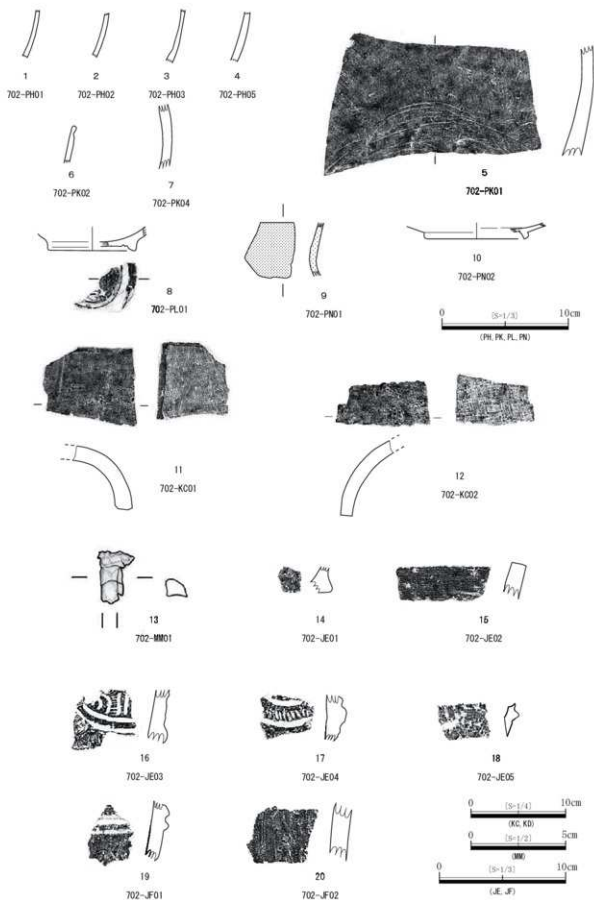
1. 暗茶色土 粘性なし、しまりややあり、赤色スコリアをごく微量含む。ローム粒子を少量含む。土粒間にやや隙間あり。



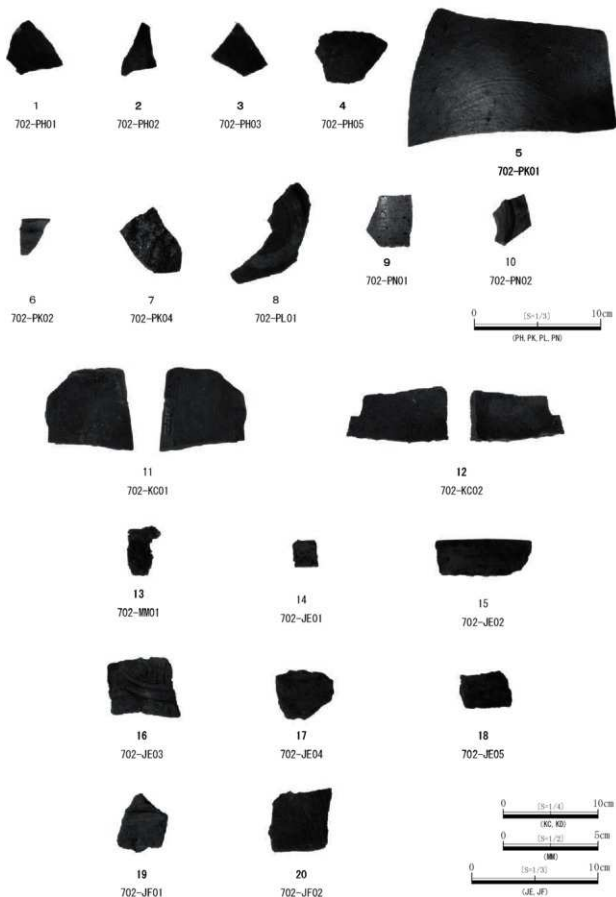
第45図 SK3436・3437、P-2 土層断面図



第46図 P-2断面(東から)



第47図 MK IV-702 出土遺物実測図（歴史時代・縄文時代）



第48図 MKIV-702 出土遺物写真(歴史時代・縄文時代)

第13表 MKIV-702 遺物観察表

MKIV-702				歴史時代 土器			
番号 遺物番号	種別 器種	出土 位置	口径 器高 底径 (cm)	器形の特徴	成・整形の特徴	残量	備考
1 P001	土師器 甕	SI820 床下	(3.8) —	胴部は緩やかに内湾する。	胴部外面ヘラケズリ。胴部内面ヘラナダ。	胴部 小片	暗褐色。軟らかい。焼成普通。微砂粒やや多量。石英少量。赤スロリア微量。
2 P002	土師器 甕	SI820 床下	(3.6) —	小片のため、全体の器形不明。	胴部外面ヘラケズリ。胴部内面ヘラナダ。	胴部 小片	にぶい赤褐色。軟らかい。焼成普通。微砂粒やや多量。石英少量。
3 P003	土師器 甕	SI820 床下	(4.2) —	小片のため、全体の器形不明。	胴部外面ヘラケズリ。胴部内面ヘラナダ。	胴部 小片	黒褐色。軟らかい。焼成普通。微砂粒やや多量。石英少量。
4 P005	土師器 甕	P-1 覆土	(4.0) —	やや肉厚で、胴部は緩やかに湾曲する。	胴部外面ヘラケズリ。胴部内面ヘラナダ。	胴部 小片	灰褐色。一部明褐色。軟らかい。焼成普通。微砂粒やや多量。小砂粒・石英少量。黒雲母やや多量。
5 P001	須恵器 甕	P-1 覆土	(8.7) —	胴部下半は緩やかに立ち上がる。	胴部外面は平行の明きの後、ヘラ・指ナダ。胴部内面ナダ。	胴部 小片	にぶい褐色。焼灰色。堅い。焼成普通。微砂粒多量。小砂粒少量。2～5mmの小石微量。
6 P002	須恵器 甕	表土	(2.9) —	口縁部は僅かに外反する。	口ロコ調整。	口縁部 ～床上 一部小片	灰白色。やや硬い。焼成普通。微砂粒少量。2～3mmの小石微量。白色針状物質やや多量。粘土粗い。
7 P004	須恵器 甕	表土	(5.2) —	胴部は緩やかに内湾する。	胴部内面ナダ。胴部外面の一部に濃緑色の降灰粒。	胴部 小片	焼灰色。堅い。焼成普通。微砂粒少量。
8 P001	土師置土器 高台付埴	SK3437 覆土	(1.9) (7.0)	やや肉厚な器内で、高台は低い。	口ロコ調整の後、底部は高台貼付時のナダが中央付近まで及ぶ。	底部 1/3	灰黄褐色。やや軟らかい。焼成普通。微砂粒やや多量。石英・黒雲母少量。粘土粗い。高台高0.5cm。
9 P001	灰輪陶器 甕	表土	(4.3) —	頸部は口縁部に向かって外上方向やや広がる。	口ロコ調整。頸部内外に淡緑灰色の釉。	頸部 小片	灰白色。堅い。焼成普通。微砂粒少量。
10 P002	灰輪陶器 甕	表土	(1.3) (7.6)	強く内湾する低い三日月の高台。	口ロコ調整。体部内外面の一部にオリーブ黄色の釉。	体部 ～高台 1/6	明灰色。堅い。焼成普通。微砂粒やや多量。高台高0.6cm。

## MKIV-702

## 歴史時代 瓦

番号 遺物番号	出土 位置	狭端 広端 全長 (cm)	厚さ (cm)	成・整形の特徴						備考
				凹面			凸面		端面	
				素材	布目	特徴	明き	特徴		
11 K001	SK3437 覆土	(4.3) (8.5)	1.6	—	27 × 29	狭・側端縁面取り。	—	ナダ。	側端面ヘラケズリ。狭端面ナダ。	無段。灰色。堅い。焼成普通。微砂粒多量。2～5mmの角礫少量。
12 K002	SK3437 覆土	(5.4)	1.3	粘土 横粒	21 × 21	—	罫目	罫目明きの後、ヨコヘラケズリ。	側端面ヘラケズリ。	無段。灰色。堅い。焼成普通。微砂粒やや多量。2～8mmの角礫少量。

## MKIV-702

## 歴史時代 金属製品

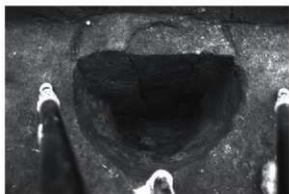
番号 遺物番号	種別 形態	出土位置	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考
13 M001	釘	SR258-1 埋土	(1.9)	(1.3)	0.6	2.9	

## MKIV-702

## 縄文時代 土器

番号 遺物番号	種別 器種	出土 位置	口径 器高 底径 (cm)	器形の特徴	成・整形の特徴	残量	備考
14 JE01	深鉢	SI820 床下	(2.1) —	底部片。	表面は粗いナダ。	胴部 小片	中期後半か?。にぶい赤褐色(内面は黒色)。焼成普通。微砂粒を少量含む。粘土やや粗い。
15 JE02	浅鉢	表土	(3.0) —	平坦な口唇部。	内外面ともに丁寧なヨコナダ。	胴部 小片	中期前半。にぶい赤褐色。焼成普通。微砂粒やや多量。2～3mmの角礫微量。粘土やや粗密。
16 JE03	深鉢	表土	(4.3) —	胴部片。	幅広隆帯上に連続する刻みを施し、二重の沈線によって区画された内側にバナネル文を施す。内側はやや丁寧なヨコナダ。	胴部 小片	磨灰II期(藤内)。にぶい赤褐色(内面は黒褐色)。微砂粒少量。粘土やや粗密。
17 JE04	深鉢	表土	(3.7) —	胴部片。	幅広隆帯上に刻みを施し、隆帯に沿って沈線を示す。整形はやや粗雑。	胴部 小片	磨灰IIか中期。赤褐色。焼成普通。微砂粒やや多量。粘土やや粗い。
18 JE05	深鉢	表土	(2.7) —	口縁部に近い胴部。	ヒダ状文を施し、その上に幅広隆帯と押し引きを列並す。	胴部 小片	阿玉台1も類。暗黄色。焼成やや不良。微砂粒少量。粘土やや粗密。
19 JF01	深鉢	SR258-1 埋土	(4.7) —	頸部か?。	二重の貼付隆帯を巡らす。	胴部 小片	加曾利E-2。灰黄褐色。焼成普通。微砂粒少量。2～3mmの角礫微量。赤色スロリア少量。
20 JF02	深鉢	表土	(4.6) —	胴部片。	表面は縦位のくし状工具による整形。内面は丁寧なヨコナダ。	胴部 小片	中期後半か?暗黄色。焼成普通。小砂粒少量。やや粗密。





第49図 SB238-1 断面 (南から)



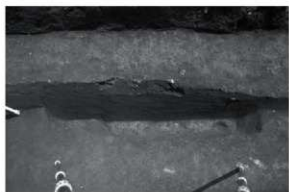
第50図 SB238-2 断面 (南から)



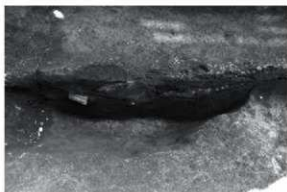
第51図 S1820 床面検出状況 (北から)



第52図 S1820・821 床面検出状況 (東から)



第53図 SK3436 断面 (西から)



第54図 SK3437 断面 (西から)



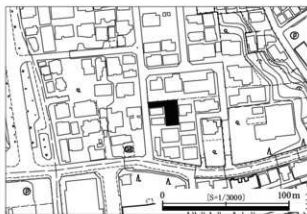
第55図 S1820・821 断面 (東から)



第56図 P-1 断面 (東から)

## (4) 武蔵国分寺跡第703次調査

所在地	国分寺市泉町1-6		
調査原因	個人住宅	調査種別	発掘調査
調査期間	平成26年6月17日～6月20日		
調査面積	5.12㎡	遺物箱数	なし
検出遺構	なし		
主な遺物	なし		



第57図 MK I-703 調査地位位置図

調査区は、武蔵国分寺跡（No.19 遺跡）に該当する。当該地は、縄文時代の土坑、奈良・平安時代の住居・土坑等が存在する可能性があるため、排水管工事等によって遺構が破壊される可能性のある範囲を対象に発掘調査を実施した。調査面積は5.12㎡である。現地調査は平成26年6月17日から6月20日（実働4日）まで行った。

調査区内は、地表より約10～30cmの深さまで基本層序Ⅰ層（表土・盛土）に覆われており、その下の基本層序Ⅲb層とⅢc層においてそれぞれ遺構確認を行ったが、遺構・遺物は検出されなかった。なお、調査区内では極所的にⅢa層が確認された。なお、当地点では市内の一般的な層序に比べて表土が薄く、浅い位置でⅢb層に達している。



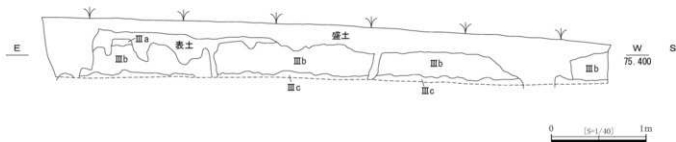
第58図 MK I-703 調査区全景（西から）



第59図 MK I-703 調査区全景（東から）



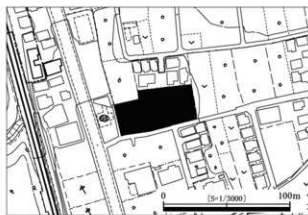
第60図 MK I - 703 調査区全体図



第61図 MK I - 703 調査区土層断面図

## (5) 武蔵国分寺跡第705次調査

所在地	国分寺市西元町2-4外		
調査原因	宅地造成	調査種別	確認調査
調査期間	平成26年3月19日～3月30日		
調査面積	122.65㎡	遺物箱数	1箱
検出遺構	SF1(東山道武蔵路)、SD431・432、P-1・2		
主な遺物	須恵器・土師質土器・灰釉陶器・中世陶磁器・瓦・鉄滓		



第62図 MKⅢ-705 調査地位位置図

本埋蔵文化財確認調査は、平成27年2月3日付 国教教ふ収第792号 文化財保護法第93条第1項届出に基づき、国分寺市教育委員会が国分寺市遺跡調査会に委託して行ったものである。

調査区は、武蔵国分寺跡遺跡(No.10・19)に該当し、新整備基本計画および保存管理計画等の諸計画において、将来的な追加指定および保存整備の対象となりうる地域である。

この場所は武蔵国分寺の僧寺と尼寺の中間地点にあたり、古代官道である東山道武蔵路が南北に通過していた場所で、当該地の北側約15m付近で実施された3地点(MKⅢ49・92・219次調査)の既往調査では、東山道武蔵路の側溝や硬化面が検出されており、その南推定延長線上にあたるこの場所も同様の道路遺構が検出される可能性が非常に高かったことから、宅地造成の計画に先だって重要な遺構・遺物等の存在を確認するための調査を実施した。

調査は東山道武蔵路に関連する遺構の有無、推定通過ライン、遺構の遺存状況等を把握することを目的として、東西方向に3本のトレンチを設定して行った。調査面積は約122㎡である。

現地調査は平成27年3月19日から同年3月30日(実働8日)まで行った。

調査区内は、もともと植木畑であったこともあり、各トレンチとも地表より約30～50cmの深さまで基本層序Ⅰ層(表土・耕作土)に覆われていた。Ⅰ層の下からは非常に硬く締まった10～30cm程の硬質層が検出され、この硬質層の下からSF1(以下、東山道武蔵路)の側溝が検出された。

調査区内で確認された硬質層は、北・中央・南の各トレンチで断続的ではあるが広範囲で検出されており、東山道武蔵路の道路外側まで広がっている箇所も認められた。この硬質層が古代等の道路遺構に伴う、いわゆる「硬化面」や道路の整備・補修の痕跡とも考えられたが、本調査区のほぼ全域にわたって、硬質層とその下層の地山との境が漸移的ではなく非常に明確に分けられることから、ある時期にⅢb層(古代の遺構確認面)の下方、あるいはⅢc層まで一律に掘削された結果であると判断された。おそらくは、耕作や客土を目的とした掘削により上部が削平され、その後充填された黒褐色の土が強く締まって硬質層が形成されたと想定される。国分寺市域では、武蔵野段丘面上の東山道武蔵路の側溝に比べて立川段丘面上の側溝は国分寺崖線直下付近を除いて遺構の遺存が悪く、浅く検出されることがほとんどであり、その多くは本地点のように耕作や攪乱などによる削平と想定される。

**東山道武蔵路 (SF1) (第52図)** 北・中央・南の各トレンチで古代道路に付随する両側側溝 (SD431・432) が検出された。東山道武蔵路の造道時の側溝で、国分寺市泉町地区 (泉町二丁目) で検出された東山道武蔵路の4期の道路変遷のうち、第1期にあたる。調査区で確認された道路の幅は、両側側溝の心々で約11.6m～11.8mを測り、市域の他地点で確認されている道路幅とほぼ同じ約12mである。側溝間の道路本体部分では、攪乱等により道路に伴う硬化面や波板状圧痕などは確認されなかった。調査区内の東山道武蔵路は、武蔵国分僧寺中軸線北に対して9°04'35"東偏する。

**SD431溝 (東側側溝) (第64・65図)** 東山道武蔵路の東側側溝で、北・中央トレンチ内の北側、南トレンチ内の南側で検出された。北トレンチでは、地表下約30cmで検出された。側溝の上端の幅は西側が攪乱によって壊されているため明らかでないが、60cm以上と想定される。残存する遺構の深さは75cmを測り、調査区内では比較的遺存度が高い。側溝の下層には、側溝を掘削した後に充填されたロームブロック土を主体とした10cm程の層があり、市域の他地点で確認された側溝内の覆土と同じ様相を呈する。なお、調査区内で確認された全ての側溝底部において同様の堆積が確認された。

中央トレンチは、大きく攪乱を受けており、底部付近の側溝が僅かに存在するのみであった。

**SD432溝 (西側側溝) (第64・69図)** 東山道武蔵路の西側側溝で、北トレンチ内の西側では、地表面より約55cmの深さで検出された。確認面での側溝の幅は約80cm、深さは60cmを測る。北トレンチ内のSD432は、トレンチ北側と南側で側溝が途切れている状況が確認された。これも市域の他地点の調査区で確認されている、いわゆる土坑連結式の側溝では所々に浅く掘り残されている部分があり、さらに土坑間が途切れる部分がある状況と同じである。途切れた距離は現況で約1.1mを測るが、側溝上部の削平がなければ、本来は上端のみが連結されていた可能性や、現状の掘り方より上方が1段外に広がる土坑形体であった場合は土坑間の距離が検出状況より短かかった可能性もある。

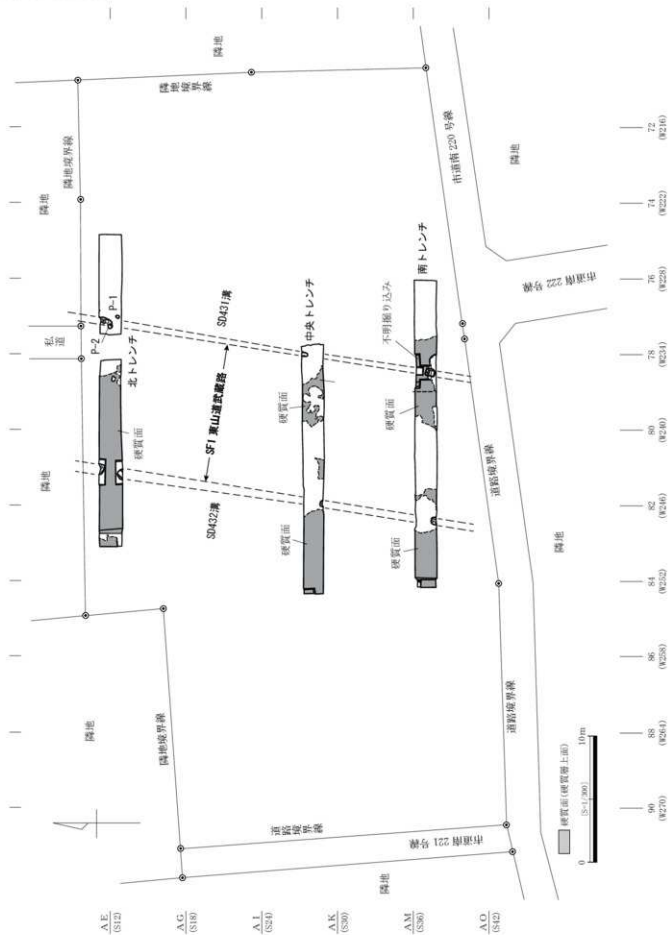
中央トレンチ及び南トレンチは、攪乱が多く、両トレンチともに表土より約65cmの深さで側溝が検出され、底部付近が約35cmほど遺存するのみであった。

なお、調査区内では、武蔵野段丘面上の国分寺市泉町で確認された第2～4期の状況は確認できなかった。しかし、比較的遺存状態の良かった北トレンチのSD431でも、第2期の特徴といえる側溝覆土上層にローム土を充填して整備した痕跡がなかったことから、立川段丘面上の当該地域においては第2期の道路構造はなかったと考えられる。

また本調査では、トレンチを東西方向に比較的長く設定して行ったが、泉町で確認された、新たな側溝を有する9～13m幅の第3期道路も検出されなかった。周辺の調査区でも立川段丘面上で第2・3期の道路構造は検出されておらず、本調査においてもこれまでの調査結果を追認するかたちとなった。

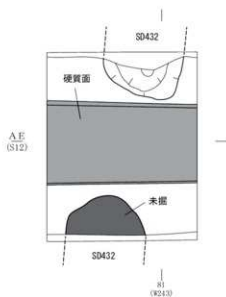
第4期の状況は、路面中央部に施工された波板状圧痕等と硬化面を伴うことが特徴であるが、本地点では上部削平の影響からか、本調査では検出されていない。

このほか、調査区では、不明掘り込みやピットなどを数箇所確認したが、重要な遺構でない判断されたことから、確認面での観察に留めた。側溝内から出土した遺物はなく、硬質層や表土から須恵器・土師質土器・灰釉陶器・中世陶磁器・瓦・鉄滓などが出土している。

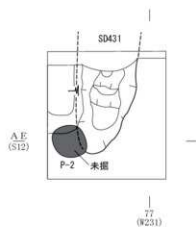


第 63 図 MK III-705 調査区域全体図

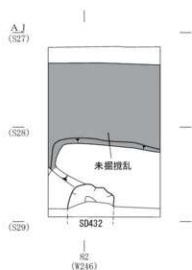
SD432 完掘平面図(北トレンチ)



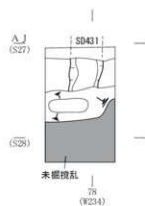
SD431 完掘平面図(北トレンチ)



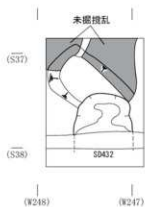
SD432 完掘平面図(中央トレンチ)



SD431 平面図(中央トレンチ)



SD432 完掘平面図(南トレンチ)

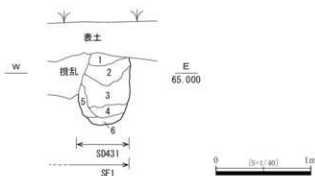


SD431 完掘平面図(南トレンチ)



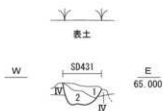
第64図 SD431・432 平面図

SD431 土層断面 (北トレンチ)



1. 7.5YR2/2 黒褐色土 しまりなし、粘性なし。赤色スコリア、ローム粒子を3%含む。
2. 7.5YR2/2 黒褐色土 しまりややあり、粘性なし。部分的に良好にしまり、赤色スコリア・オレンジスコリア3%、ローム粒子をしまりに5%含む。
3. 7.5YR2/1 黒色土 しまりややあり、粘性なし。部分的に良好にしまり、2層30%ほど、赤色スコリア3%、ローム粒子をしまりに20%含む。
4. ロームブロック主体土 しまりあり、粘性なし。暗褐色土を20%、ローム粒子20%含む。ロームブロック1~10cm主体土。
5. 10YR3/3 暗褐色土 しまりややあり、粘性なし。5~30cmのロームブロック10%、ローム粒子3%、部分的に3層の黒色土含む。
6. 7.5YR3/4 暗褐色土 しまりややあり、粘性なし。

SD431 土層断面図 (中央トレンチ)



1. 10YR1.7/1 黒色土 しまりなし。粘性ややあり。しまりにローム粒子20%含む。
2. ロームブロック・粒子主体土 しまりなし。粘性ややあり。赤色スコリア・オレンジスコリア2%、部分的に1層の黒色土5%含む。

第65図 SD431 断面図

調査区土層断面図 (北トレンチ西端)



1. 10YR3/3 暗褐色土 しまり極めて良好、粘性なし。赤色スコリア・オレンジスコリア5%、0.5~0.7cmの小石少量含む。底部に水漬きの痕跡あり。歴史時代の遺物を含む。硬質層に似る。

調査区土層断面図 (南トレンチ西端)



1. 10YR3/2 黒褐色土 しまり極めて良好、粘性ややあり。赤色スコリア、オレンジスコリア3%含む。部分的に水漬きの痕跡あり。北トレンチ西端の1層に似る。
3. 10YR3/2 黒褐色土 しまり極めて良好、粘性ややあり。ローム粒子40%、赤色スコリア・オレンジスコリア3%含む。硬質層に似る。

第66図 北・南トレンチ 断面図



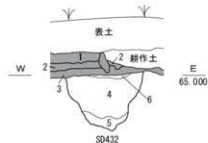
第67図 北トレンチ西端 土層断面図 (北から)



第68図 南トレンチ西端 土層断面図 (南から)



## SD432 土層断面図(北トレンチ)

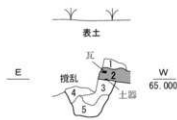


- |                 |  |
|-----------------|--|
| 1. 10YR3/4 暗褐色土 | しまり良好、粘性なし、赤色スコリアを2%含む(硬質層)。                                     |
| 2. 10YR3/3 暗褐色土 | しまり極めて良好、粘性なし、赤色スコリア、オレンジスコリアを3%、0.5~1cmの小石を数点含む(硬質層)。           |
| 3. 10YR3/3 暗褐色土 | しまり極めて良好、粘性なし、赤色スコリア、オレンジスコリアを5%含む。底部に水漬きの痕跡あり(硬質層)。             |
| 4. 10YR2/1 黒色土  | しまり良好、粘性なし、全体に赤色スコリア、オレンジスコリアを5%、1~5cmのロームブロックを3%含む。部分的に非常に硬くなる。 |
| 5. ロームブロック主体土   | しまりなし、粘性ややあり。部分的に4層の土を5%含む。                                      |
| 6. 10YR3/4 暗褐色土 | しまり極めて良好、粘性ややあり。ローム粒子を40%含む。                                     |



第70図 北トレンチ SD432 断面(南から)

## SD432 土層断面図(中央トレンチ)

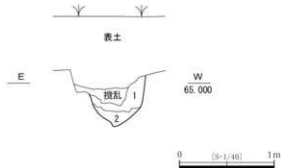


- |                  |  |
|------------------|--|
| 1. 10YR3/1 黒褐色土  | しまりややあり、粘性なし、オレンジスコリア、黒色スコリアを1%含む。   |
| 2. 10YR3/2 黒褐色土  | しまり極めて良好、粘性ややあり、赤色スコリア、オレンジスコリア、黒色スコリアを5%、底部にローム粒子を少し含む(3%含む)。歴史時代の遺物を包含する(硬質層)。 |
| 3. 10YR1.7/1 黒色土 | しまりややあり、粘性ややあり、赤色スコリア、オレンジスコリア、ローム粒子を3%、0.5~5cmのロームブロックを10%含む。上層が部分的に硬くなる。       |
| 4. 10YR1.7/1 黒色土 | しまりなし、粘性ややあり。ボソボソしている。ローム粒子を少し含む(30%含む)。   |
| 5. ロームブロック主体土    | しまりなし、粘性ややあり。赤色スコリアを1%含む。0.5~7cmのロームブロックを主体とし、部分的に暗褐色土を含む。                       |

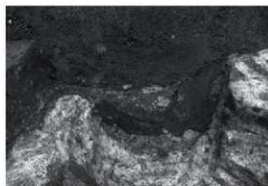


第71図 中央トレンチ SD432 断面(北から)

## SD432 土層断面図(南トレンチ)

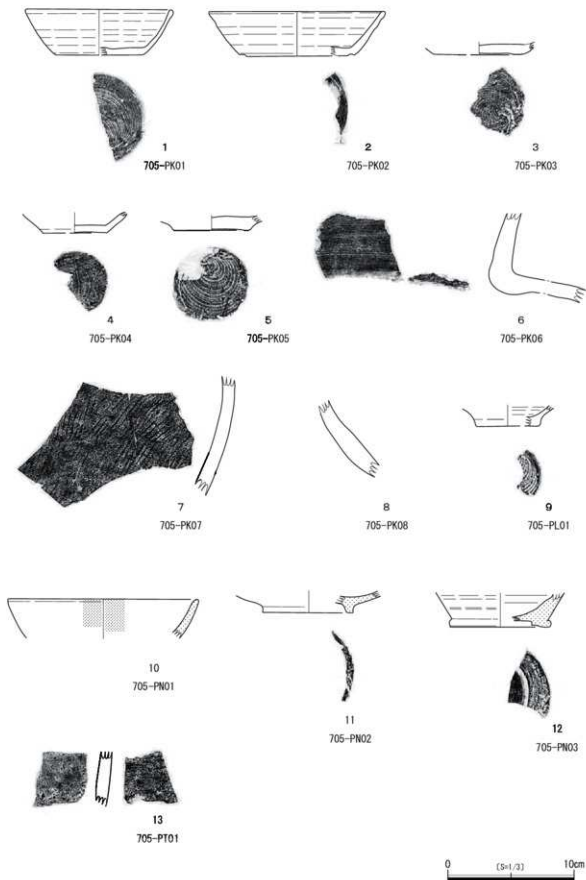


- |                  |  |
|------------------|--|
| 1. 10YR1.7/1 黒色土 | しまりややあり、粘性ややあり。部分的にボソボソしている。赤色スコリア、ローム粒子を3%、少しに3~10cmのローム粒子を10%含む。 |
| 2. ロームブロック主体土    | しまりあり、粘性ややあり。1~7cmのロームブロックを主体とし、部分的に10%ほど1層の黒色土を含む。                |



第72図 南トレンチ SD432 断面(北から)

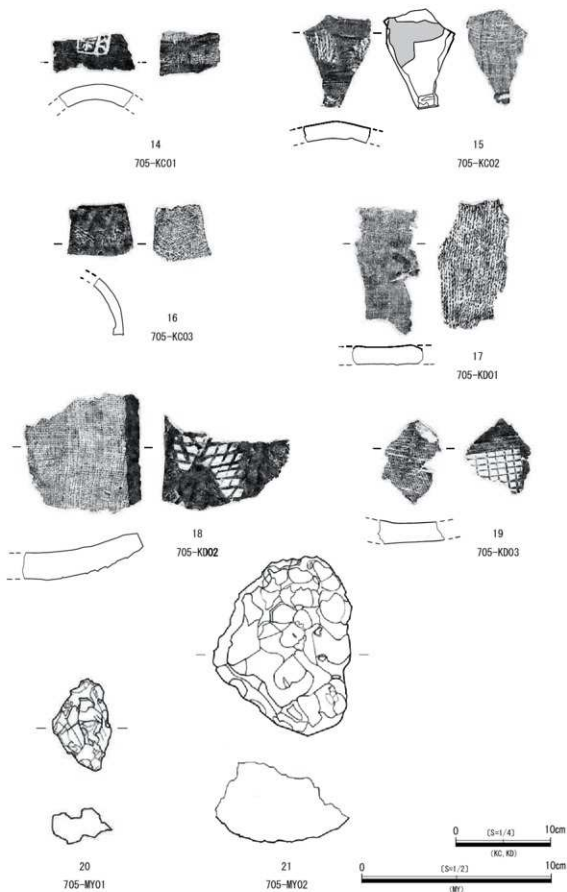
## 第69図 SD432 断面図



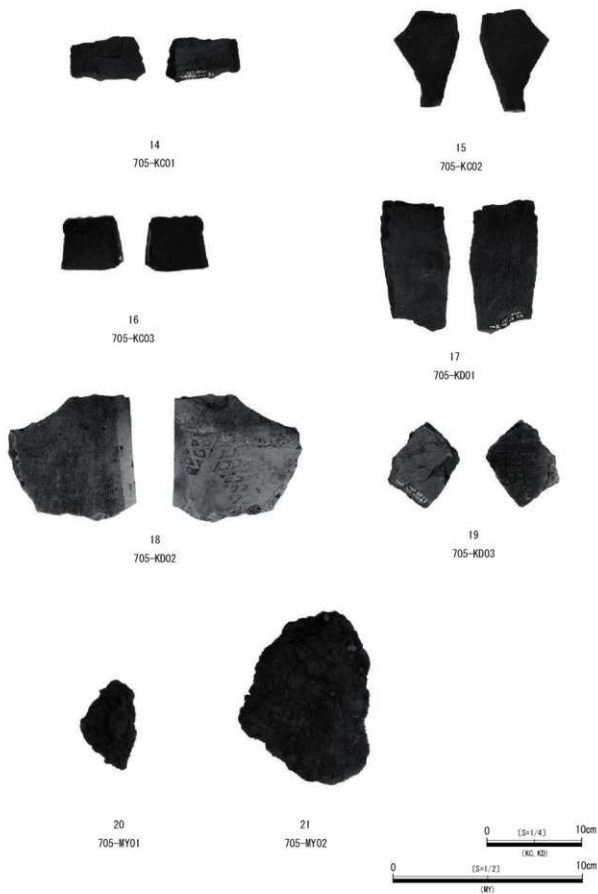
第73図 MKⅢ-705 出土遺物実測図（歴史時代）1



第74図 MKⅢ-705 出土遺物写真(歴史時代) 1



第75図 MK III-705 出土遺物実測図（歴史時代）2



第76図 MKⅢ-705 出土遺物写真(歴史時代) 2

第14表 MKⅢ-705 遺物観察表

MKⅢ-705			歴史時代 土器							
番号 遺物番号	種別 器種	出土位置	口径 器高 底径 (cm)	器形の特徴	成・整形の特徴	残量	備考			
1 FK01	須恵器 坏	表土	(11.4) 3.6 (8.6)	口縁部は直線状に外上方へ立ち上がる。	口クロ調整の後、底部は回転糸切りをし、外周を回転ヘラケズリ。	口縁部 1/10、 底部 1/2	灰色。堅い。焼成普通。微砂粒やや多量。2~3mmの角縁微量。白色針状物質やや多量。			
2 FK02	須恵器 坏	表土	(10.42) 3.5 (8.0)	体部から口縁部にかけて直線状に立ち上がる。	口クロ調整の後、底部は回転糸切りをし、外周を回転ヘラケズリ一部ナデ。	口縁部 1/8、底部 1/10	灰白色。やや軟らかい。焼成普通。微砂粒少量。			
3 FK03	須恵器 坏	表土	(1.0) (7.0)	底部はやや肉厚。	口クロ調整の後、底部は回転糸切りをし、無調整。	底部 2/3	灰色。堅い。焼成普通。微・小砂粒少量。2~3mmの角縁微量。			
4 FK04	須恵器 坏	表土	— (1.6) (5.0)	底部から体部にかけてやや内湾気味に立ち上がる。	口クロ調整の後、底部は回転糸切りをし、無調整。	体部小片、底部 2/3	灰色。堅い。焼成普通。微砂粒少量。2mmの小砂粒微量。			
5 FK05	須恵器 皿	表土	— (1.1) 5.0	底部は全体的に肉厚。高台は欠損のため形は不明。	口クロ調整の後、底部は回転糸切りをし、無調整。	口縁部 小片、底部 底面形	にぶい黄褐色。やや軟らかい。焼成普通。微砂粒少量。2~3mmの角縁微量。底部内径7.2cm。			
6 FK06	須恵器 甕	表土	— (7.2)	胴部は内傾し、頸部は屈曲して外傾する。	胴部内外面上・胴部内面上部はココナデ。胴部内面と胴部外面に淡緑色の降灰粒。	胴部小片	灰白色。堅い。焼成普通。小砂粒少量。2~7mmの角縁微量。胴部内径(26.0)cm。			
7 FK07	須恵器 甕	表土	(9.3) —	胴部は緩やかに内湾して立ち上がる。	胴部外面は平行の引き。胴部内面に円形の当て具痕。	胴部小片	紫灰色。堅い。焼成普通。微砂粒少量。			
8 FK08	須恵器 甕	表土	(6.1) —	胴部はやや肉厚。	胴部内面の一部に緑色の降灰粒。	胴部小片	灰色。堅い。焼成普通。微砂粒少量。2~4mmの角縁微量。			
9 PL01	土師質土器 坏	不明掘込み	(1.7) (5.0)	平らな底部から体部は緩く外反して立ち上がる。	口クロ調整の後、底部は回転糸切りをし、無調整。	底部~ 体部 小片	にぶい橙色。軟らかい。焼成普通。微砂粒少量。石英微量。			
10 PN01	灰輪陶器 碗	表土	(15.0) (3.1)	体部は内湾して立ち上がり、口縁部はやや外反する。	口クロ調整。体部内面・口縁部・体部外面の一部に掛け掛けによる淡緑灰色の釉。	口縁部 1/8	灰白色。堅い。焼成普通。微砂粒微量。やや粗い。			
11 PN02	灰輪陶器 皿	表土	(1.7) (7.0)	高台は低い角高台を呈する。	口クロ調整。外面の高台付根の調整。体部内面の一部にオリブ黄色の釉。	底部~ 体部 小片	灰白色。堅い。焼成普通。微砂粒微量。			
12 PN03	灰輪陶器 長頸瓶	SD431 覆土	(2.7) (7.8)	蛇の目高台を有する。	口クロ調整の後、体部外面下半・底部外面回転ヘラケズリをし、高台貼付。見込みの一部に深緑色の降灰粒。	胴部 小片	灰色。堅い。焼成普通。微・小砂粒少量。粘土やや粗い。			
13 PT01	中近世陶器 甕	表土	(4.3) —	常滑。体部は内湾気味に立ち上がる。	胴部内面はココナデ。	胴部小片	暗赤褐色。堅い。焼成普通。微・小砂粒やや多量。2~7mmの角縁少量。			
MKⅢ-705			歴史時代 瓦							
番号 遺物番号	出土位置	狭端 広端 全長 (cm)	厚さ (cm)	成・整形の特徴				備考		
				凹面		凸面			端面	
				素材	布目	特徴	叩き	特徴	特徴	
14 KC01	表土	— (4.5)	2.0	—	(21×15)	指ナデ(指書き)あり	ナデ。 押印「棟」(棟記号)あり	—	—	無段。灰色。堅い。微砂粒多量。
15 KC02	表土	— (10.7)	1.8	—	25×28	広端縁面取り。朱書きあり。	罫目	罫目 罫目印きの後、ヨコヘラケズリ一部指ナデ。広端縁面取り。	広端面ヘラケズリ	無段。褐灰色。堅い。焼成普通。微砂粒多量。2~4mmの角縁微量。
16 KC03	表土	(3.2) (5.7)	1.0	粘土 横紐	21×25	—	罫目	罫目印きの後、ヨコヘラケズリ。広・側端縁ナデ。	広端面ナデ。側端面ヘラケズリ。	無段。暗灰色。堅い。焼成普通。微砂粒微量。
17 KD01	表探	(3.0) (14.4)	2.0	—	25×28	横骨文字「七」あり。	罫目	—	—	一枚作り。灰色。堅い。焼成普通。微砂粒やや多量。2~8mmの角縁微量。
18 KD02	表土	— (13.3)	2.9	—	21×16	側端縁ヘラケズリ。	斜格子	斜格子印きの後、ナデ(指押痕多量)。	側端面ヘラケズリ。	灰白色。堅い。焼成普通。微砂粒少量。2~8mmの角縁微量。
19 KD03	表土	— (9.7)	2.3	—	18×24	—	正格子	—	—	暗灰色。堅い。焼成普通。微砂粒少量。3~25mmの角縁微量。白色針状物質やや多量。
MKⅢ-705			歴史時代 金属製品							
番号 遺物番号	種別 形類	出土位置	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考			
20 MY01	鉄洋 釦	SD431 覆土	4.8	3.1	1.9	20.4				
21 MY02	鉄洋 釦	SD431 覆土	9.5	7.2	4.3	265.4	梅型洋釦。			



第77図 北トレンチ東側全景(東から)



第78図 北トレンチ西側全景(西から)



第79図 中央トレンチ全景(西から)



第80図 南トレンチ全景(東から)



第81図 北トレンチ SD431 全景・断面(南から)



第82図 北トレンチ SD432 全景(西から)



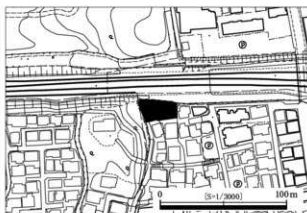
第83図 中央トレンチ SD431 断面(南から)



第84図 南トレンチ SD431 全景・断面(南から)

## (6) 花沢西遺跡 (No.8 遺跡) 第23次調査

所在地	国分寺市南町3-30-7		
調査原因	集合住宅建設	調査種別	確認調査
調査期間	平成26年4月21日～4月28日		
調査面積	3.26㎡	遺物箱数	なし
検出遺構	なし		
主な遺物	なし		



第85図 K8-23 調査地位置図

調査区は、花沢西遺跡 (No.8 遺跡) に該当する。当該地は、旧石器・縄文時代等の遺構・遺物が存在する可能性があるため、集合住宅建設によって遺構が破壊される可能性のある範囲について、より詳しく埋蔵文化財の有無・内容・性格等を把握する目的で確認調査を行った。調査面積は3.26㎡である。

現地調査は平成26年4月21日から4月28日まで行った。

工事予定地は、東西に約2m程度の高低差があり、擁壇状に造成されていた。そのため西側の低い方にAトレンチを、東側の高い方にBトレンチを設定して調査を行った。

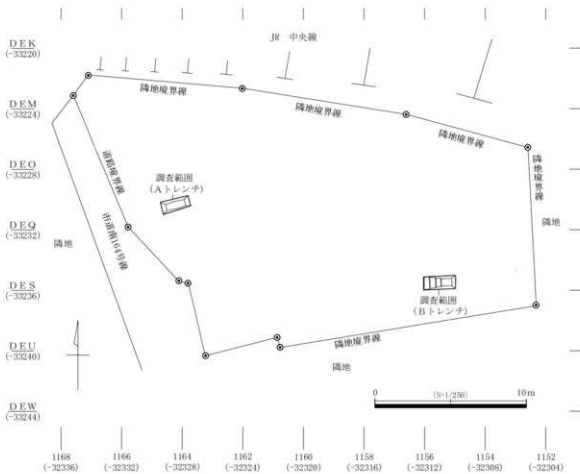
Aトレンチにおいて、地表下約1.5mまで掘削したが、全て盛土であり、旧石器・縄文時代の遺構確認を行ったが、遺構・遺物は未検出であった。

Bトレンチにおいては、地表面下約0.2mでローム層を確認した。当該ローム層の性格をつかむ為にさらに1m掘削したが、遺構・遺物は未検出であり、指標となる暗色帯等は検出されなかった。このことから当該ローム層は、現在国分寺市内で石器が出土されている最古の層位である立川ローム層第X層より下位のローム層である可能性が高く、第XI層と想定された。なお、この層位は周辺で行われたK8-15・16次調査で確認された層位とほぼ同じである。

上記のようなAおよびBトレンチの様相から、当該調査区においては遺構・遺物が検出される地層が全て削平されているものと判断された。

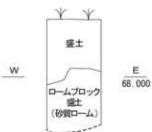
第86図 Aトレンチ全景  
(南から)第87図 Bトレンチ全景  
(東から)第88図 Bトレンチ  
土層断面 (南から)



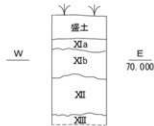


第89図 K8-23 調査区全体図

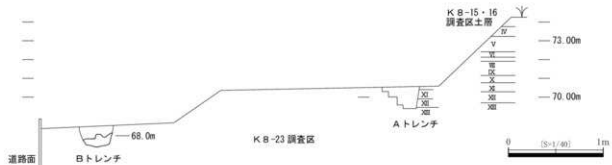
土層柱状図 (Aトレンチ)



土層柱状図 (Bトレンチ)



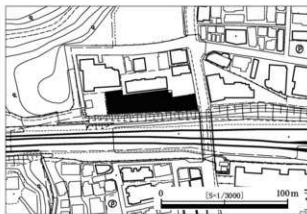
- X I a層 黄褐色土ローム 粘性・しまり極めて良好。赤色スコリア多量、黒色スコリア微量含む。  
 X I b層 黄褐色土ローム 粘性・しまり極めて良好。X I a層よりやや細かい。下層に行くほど赤色スコリア含有量が多くなる。黒色スコリア多量含む。  
 (Tc) X II層 暗黄褐色土ローム 粘性・しまり極めて良好。赤色スコリアの量が減少し、黒色スコリアを多く含む。黄灰色スコリアを多量に含む。  
 (M) X III層 暗黄褐色土ローム 粘性・しまり極めて良好だが、上層と比較してやや明るくなり、砂質っぽくなる。赤色スコリア・黒色スコリアに加えて白色スコリアも多くなる。



第90図 土層柱状図および周辺調査区の土層

## (7) 花沢西遺跡 (No.8 遺跡) 第24次調査

所在地	国分寺市本町4-2803-3		
調査原因	その他建物建設	調査種別	確認調査
調査期間	平成26年10月22日～10月30日		
調査面積	15.01㎡	遺物箱数	1箱
検出遺構	なし		
主な遺物	縄文土器		



第91図 K8-24 調査地位置図

調査区は、花沢西遺跡 (No.8 遺跡) に該当する。当該地は、旧石器時代の礫群・集石、縄文時代の住居・土坑等が存在する可能性があるため、建物の基礎工事等によって遺構が破壊される可能性のある範囲について、確認調査を実施した。

調査面積は15.01㎡である。現地調査は平成26年10月22日から10月30日(実働7日)まで実施した。

調査区内は、地表より約60～70cmの深さまで基本層序I層(表土・盛土)に覆われていた。その下層のⅢa層・Ⅲb層及び縄文時代の遺構確認面となるⅢc層まで掘下げて確認を行ったが、遺構は未検出であった。また旧石器時代の遺物を確認するためにトレンチ内の一部をⅣ層・Ⅴa層の途中(地表より約180cmの深度)まで掘削して確認したが、旧石器時代の遺物も出土しなかった。

なお、遺物包含層であるⅢb層から縄文時代の土器が数点出土している。

また、同年12月1日に同敷地内東端での水道工事に伴う立ち合い調査も行ったが、遺構や遺物は検出されなかった。

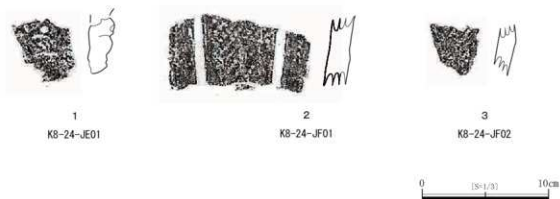


第92図 調査区全景(東から)



第93図 調査風景 遺構確認





第97図 K8-24 出土遺物実測図（縄文時代）



第98図 K8-24 出土遺物写真（縄文時代）

第15表 K8-24 遺物観察表

K8-24		縄文時代		土器		
番号 遺物番号	種別 器種	出土 位置	口径 器高 底径 (cm)	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
1 JE01	深鉢	Ⅲb層	— (3.7)	口縁部片。	口縁部隆帯の割がれたもの。	阿玉台前半。褐色。焼成やや不良。微・小粒多量、金雲母多量。粘土やや粗い。
2 JF01	深鉢	Ⅲb層	(4.6)	胴部片。	R1の縄文を地文とし、二条の縦位の沈線を生じ、沈線の外側を磨り滑す。	加勢利E3。黄褐色。焼成やや不良。微・小砂粒微量、2～3mmの角礫微量。粘土やや緻密。
3 JF02	深鉢	Ⅲb層	(3.5)	胴部片。	R1の縄文を地文とし、縦位の隆帯と蛇行沈線を生ず。	加勢利E後半か？。赤褐色（内面は黒褐色）。微砂粒少量、2～3mmの角礫少量。粘土やや緻密。

## (8) 殿ヶ谷戸北遺跡 (No.20 遺跡)

## 第7次調査

所在地	国分寺市南町1-12-28		
調査原因	個人住宅	調査種別	発掘調査
調査期間	平成26年9月18日～9月26日		
調査面積	17.89㎡	遺物箱数	1箱
検出遺構	なし		
主な遺物	縄文土器		



第99図 K20-7 調査地位置図

調査区は、国分寺市南町一丁目に所在し、殿ヶ谷戸北遺跡 (No.20) に該当する。当該地は、旧石器時代の礫群・集石、縄文時代の土坑住居・土坑等が存在する可能性があるため、地盤改良等によって遺構が破壊される可能性のある範囲を対象に確認調査を実施した。調査面積は17.89㎡である。現地調査は平成26年9月18日から9月26日(実働6日)まで行った。

調査区内は、南に向かって緩やかに傾斜している地形に対応するため、南側が厚く盛土されていた。東西に設定したトレンチ内の南側では、地表より約50cmの深さまで基本層序Ⅰ層(表土・盛土)に覆われていた。その下の基本層序Ⅱ層、Ⅲa、Ⅲb層まで確認したが、地表より約2m掘削した時点で、Ⅲc層が検出されなかったため、南側の調査を終了し、北側の掘削に移行した。

北側では、南側の深度では確認されなかったⅢc層が地表より約1.6mで検出されたため、同面において遺構確認を行ったが、遺構は検出されなかった。調査区内の基本層序は全体的に多地点に比べてⅢb層が厚く、武蔵野台地縁から国分寺崖線へ向かう斜面に流れ込んだものと想定される。

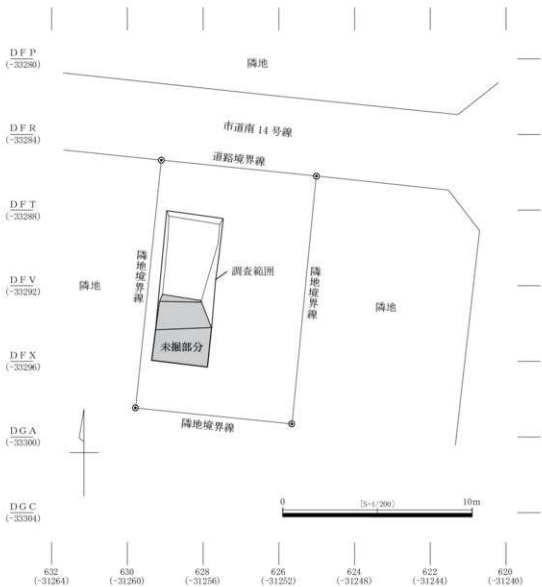
遺物は、遺物包含層より縄文時代中期後半を中心とした土器片が数点出土している。



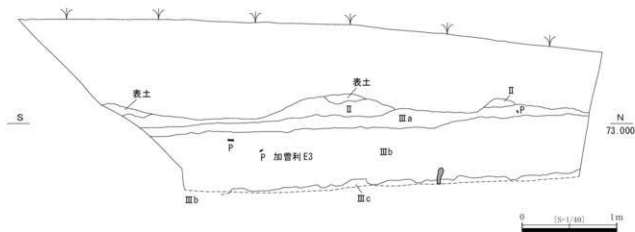
第100図 調査区全景(北から)



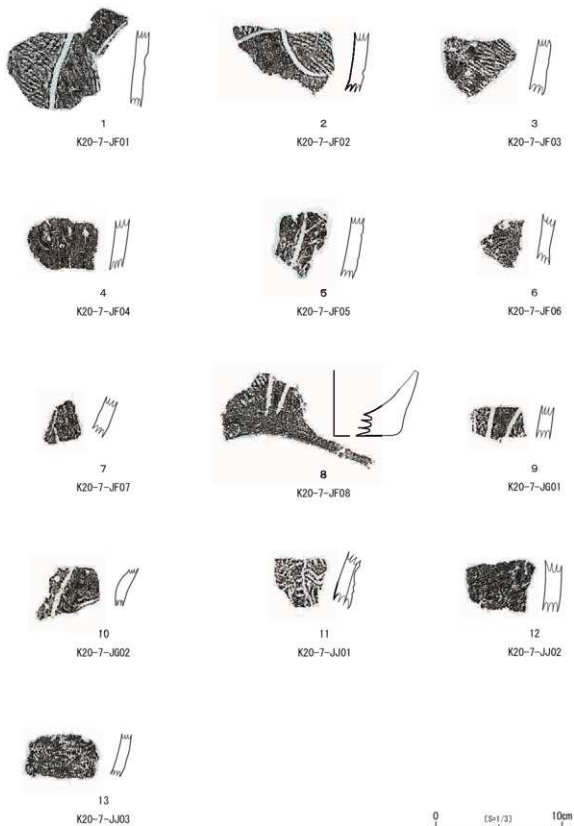
第101図 調査区西壁 土層断面(東から)



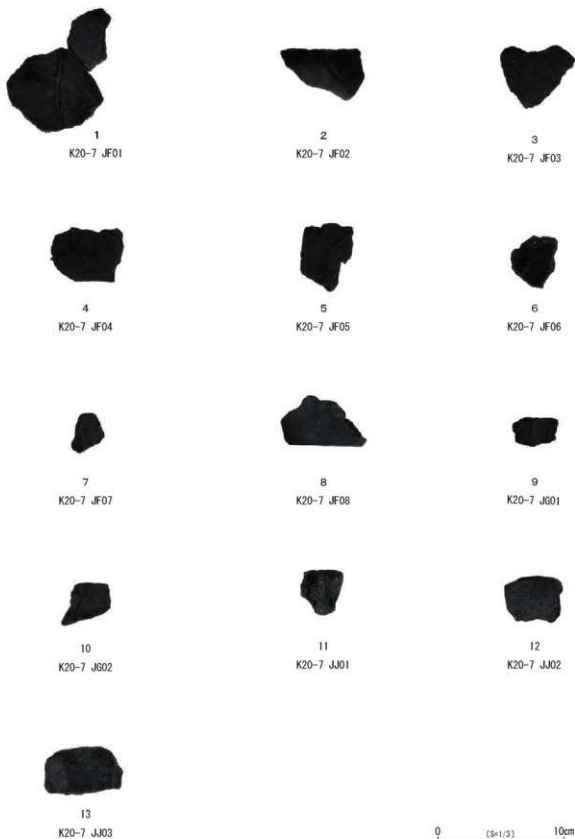
第102図 K20-7 調査区全体図



第103図 調査区 土層断面図(西壁)



第104図 K 20-7 出土遺物実測図 (縄文時代)



第105図 K20-7 出土遺物写真（縄文時代）



第16表 K20-7 遺物観察表

K20-7		縄文時代		土器		
番号 遺物番号	種別 器種	出土 位置	口径 器高 底径 (cm)	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
1 JF01	深鉢	Ⅲb層	(6.1) —	胴部片。胴部はほぼ垂直に立ち上る。	無節のL縄文を地文とし、屈曲する沈線の内側を磨り消す。内面は丁寧なコナダ。	加曾利E4。暗赤褐色。焼成普通。小砂粒やや少量。金雲母微量。2~3mmの角礫やや多量。粘土やや粗い。
2 JF02	深鉢	Ⅲb層	(3.9) —	胴部片。	無節L縄文を地文とし、蛇行する横位の沈線を施す。内面は丁寧なコナダ。	加曾利E4か? 黒色(内面は黄褐色)。焼成普通。微砂粒少量。粘土やや粗密。
3 JF03	深鉢	Ⅲb層	(4.4) —	胴部片。	無節L縄文を地文とする。	中期後半。赤褐色。焼成普通。微砂粒少量。2~3mmの角礫少量。粘土やや粗い。
4 JF04	深鉢	Ⅲb層	(4.1) —	胴部片。	内外面ともに丁寧な磨き。内面の一部に割れがあり。	中期後半。赤褐色(内面は黒色)。焼成普通。微砂粒少量。2~3mmの角礫少量。粘土やや粗密。
5 JF05	深鉢	Ⅲb層	(5.0) —	胴部片。JF01と同じ個体か?。	縦位の沈線と不定方向の短い沈線を施す。内面は丁寧なコナダ。	中期末~後期初頭。赤褐色。焼成普通。微砂粒少量。2mmの角礫やや多量。赤色スコーリア微量。粘土やや粗密。
6 JF06	深鉢	Ⅲb層	(4.1) —	胴部片。	無節L縄文を地文とする。内面は丁寧なコナダ。	中期後半。黒色(内面は赤褐色)焼成やや不良。微砂粒やや多量。4mmの角礫微量。粘土粗い。
7 JF07	深鉢?	Ⅲb層	(2.7) —	小片のため器形不明。	無文で内外面に比較的丁寧なコナダ。	中期後半か?。黄褐色。焼成やや不良。微砂粒少量。2mmの角礫微量。粘土粗い。
8 JF08	深鉢	Ⅲb層	(4.2) (7.4)	底部~胴部片。胴部はやや外傾して広がる。	縦方向のLR縄文を地文とし、縦位の二条の沈線を施す。沈線間は磨り消す。内面は丁寧なコナダ。	加曾利E3。濃い赤褐色。焼成普通。微砂粒少量。2mmの角礫やや多量。2~5mmの礫やや多量。粘土やや粗い。
9 JG01	深鉢	Ⅲb層	(2.2) —	胴部片。	縦方向のLR縄文を地文とし、縦位の沈線と蛇行して垂下する沈線を施し、沈線間は磨り消す。内面は粗いコナダ。	称名寺1。赤褐色(内面は暗灰色)。焼成やや不良。微砂粒やや多量。2mmの角礫微量。粘土やや粗密。
10 JG02	深鉢	Ⅲb層	(2.5) —	頸部片。	縦位の鎖状沈線を施し、頸帯に沿って沈線を施す。比較的薄手の器形。内外面ともに丁寧なコナダ。	称名寺1。暗褐色。焼成普通。微砂粒少量。粘土粗密。
11 JJ01	深鉢	Ⅲb層	(3.8) —	胴部片。	縦位の幅状隆帯上に刻みを入れ、横位の波状沈線を施す。内面は粗い磨き。	中期前半か?。黄褐色(内面は黒色)。焼成普通。微砂粒やや多量。金雲母やや多量。粘土やや粗密。
12 JJ02	深鉢	Ⅲb層	(3.4) —	胴部片。	無文。内外面ともに粗いナダ。	中期。暗褐色。焼成不良。微砂粒少量。2~4mmの角礫微量。粘土粗密。
13 JJ03	深鉢	Ⅲb層	(3.5) —	胴部片。	内外面ともに粗いナダ。	中期か?。明黄色。焼成普通。微砂粒微量。粘土やや粗い。



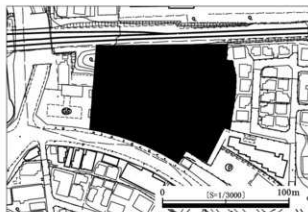
第106図 トレンチ南側土層堆積状況(東から)



第107図 調査風景

## (9) No.29 遺跡第3次調査

所在地	国分寺市南町1-14		
調査原因	集合住宅建設	調査種別	確認調査
調査期間	平成26年4月7日～4月14日		
調査面積	9.47㎡	遺物箱数	なし
検出遺構	なし		
主な遺物	なし		



第108図 K29-3 調査地位位置図

調査区は、国分寺市南町一丁目に所在し、No.29 遺跡に該当する。文化財保護法第93条第1項届出に基づき提出された当計画は、旧石器・縄文時代等の遺構・遺物が存在する可能性がある国分寺崖線の武蔵野段丘面と、現状ですでに大きく削平され、駐車場として使われていた平坦な立川段丘面にまたがる大規模な集合住宅の建設である。

立川段丘面は周知の埋蔵文化財包蔵地外であること、また、事前のボーリング調査によって厚さ3m以上の廃棄物による盛土があることが判明したことを受け、調査は武蔵野段丘面に限定し、建設に伴って遺構が破壊される可能性のある範囲について、より詳しく埋蔵文化財の有無・内容・性格等を把握する目的で確認調査を行った。調査は2本のトレンチ（A・B）を設定して行った。調査面積は9.47㎡である。現地調査は平成26年4月7日から平成26年4月14日まで実施した。

A・Bトレンチともに地表下約1mまでは表土が堆積しており、すでに縄文時代の確認面であるⅢ層は削平されていたため、縄文時代の遺構・遺物は検出されなかった。

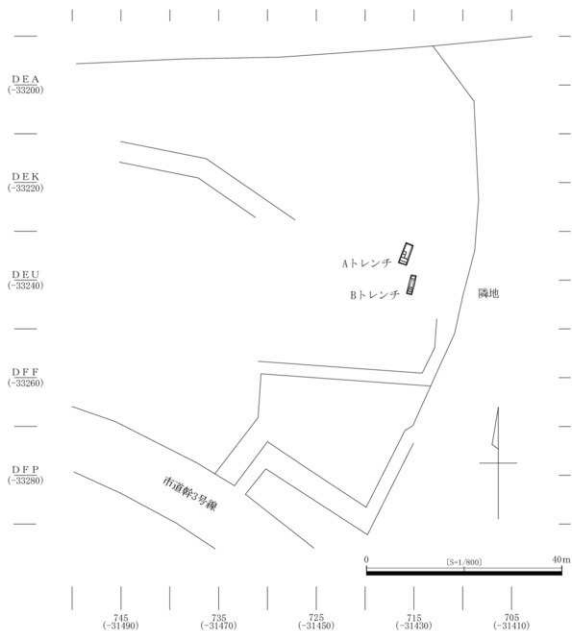
また立川ローム層（Vb層～Ⅷ層）を約2mの深さまで掘削して、旧石器時代の遺物確認を行ったが、遺物は出土しなかった。



第109図 Aトレンチ全景（南から）



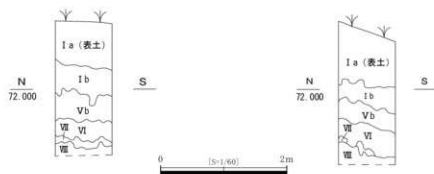
第110図 Bトレンチ全景（南から）



第111図 K 29-3 調査区全体図

土層柱状図 (Aトレンチ)

土層柱状図 (Bトレンチ)

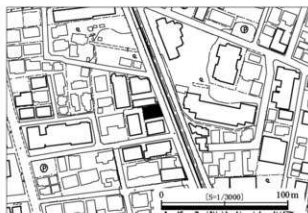


第112図 調査区土層柱状図

## (10) 恋ヶ窪東遺跡 (No.57 遺跡)

## 第23次調査

所在地	国分寺市本町4-21-29		
調査原因	店舗建設	調査種別	確認調査
調査期間	平成26年3月16日～3月27日		
調査面積	7.81 m <sup>2</sup>	遺物箱数	1箱
検出遺構	PJ-1・2		
主な遺物	縄文土器		



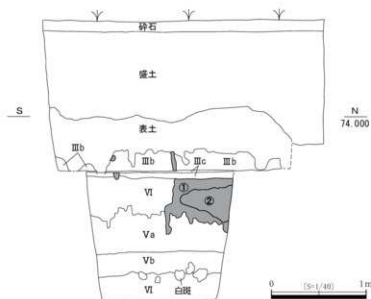
第113図 K57-23 調査位置図

調査区は、国分寺市本町四丁目に所在し、恋ヶ窪東遺跡 (No.57) に該当する。当該地は、旧石器時代の礫群・集石、縄文時代の住居・土坑等が存在する可能性があるため、建物地下室工事等によって遺構が破壊される可能性のある範囲について確認調査を行った。調査面積は7.81 m<sup>2</sup>である。

現地調査は平成27年3月16日から同年3月27日 (実働10日) まで実施した。

調査区内は、地表より約1mの深さまで基本層序1層(表土・盛土)に覆われていた。その下層のⅢa層・Ⅲb層及び縄文時代の遺構確認となるⅢc層まで掘下げて確認を行ったが、遺構は検出されなかった。また、旧石器時代の遺物を確認するためにトレンチ内の一部をⅣ層(地表より約2mの深度)の途中まで順次掘下げたが、旧石器時代の遺物も未検出である。

遺物は、縄文時代の遺物包含層であるⅢb層から縄文土器が数点出土している。



- ① 暗黄褐色土 Ⅳソフトロームに炭灰にシミが入る。部分的にしまり強い。  
 ② 暗黄褐色土 ①に似るが全体的に①より色調やや暗い。

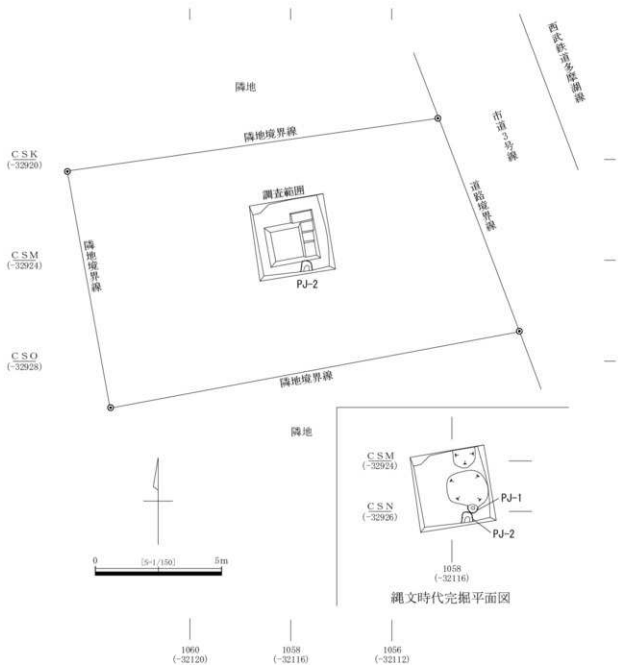
第114図 調査区 土層断面図 (西壁)



第115図 調査区完掘状況 (北から)



第116図 調査区完掘状況 (東から)



第 117 図 K 57 - 23 調査区全体図

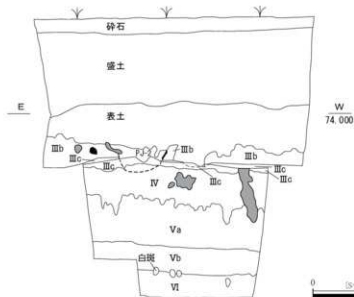


第 118 図 旧石器時代確認状況 (北から)



第 119 図 縄文時代完掘状況 (西から)

調査区土層断面図（南壁）



第 120 図 調査区 土層断面図（南壁）

PJ-1 土層断面図



PJ-2 土層断面図



1. 10YR3/2 暗茶褐色土 粘性あり、しまり度し、赤色スコリア微量含む、1と似るが色顕るい。
2. 10YR3/3 暗茶褐色土 1と似るが色顕るい。
3. 10YR5/6 暗茶褐色土 1にソフトロームブロック50%入る。

第 121 図 PJ-1・2 断面図



1  
K57-23-JE01



第 122 図 K 57 - 23 出土遺物実測図  
(縄文時代)



1  
K57-23-JE01



第 122 図 K 57 - 23 出土遺物写真  
(縄文時代)

第 17 表 K 57 - 23 遺物観察表

K 57 - 23		縄文時代 土器				
番号 遺物番号	種別 器種	出土 位置	口径 器高 底径 (cm)	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
1 JE01	深鉢	III層	((27.0) (3.1) —	口縁部はやや内傾する。	口唇部に押し引きを遺らし、口唇部下に横位の集合沈線を遺らす。内面は極めて丁寧なヨコナデ。	五箇ヶ台。黒色。焼成普通。小砂粒やや多量。赤色スコリア微量。胎土やや緻密。

### 第3章 小 結

平成26年度に国庫補助事業によって実施した確認調査および発掘調査は、武蔵国分寺跡（No.10・19遺跡）5地区、花沢西遺跡（No.8遺跡）2地区、殿ヶ谷戸北遺跡（No.20）1地区、No.29遺跡1地区、恋ヶ窪東遺跡（No.57遺跡）1地区の計10カ所である。総調査面積は、205.86㎡であり、前年の約3～4割程度であった。しかし、事業者等の負担による調査面積を含めると合計で4,460㎡を数え、市域全体の調査面積としては近年でも多い数値となっている。以下、本報告書に掲載した主な調査成果についてまとめる。

武蔵国分寺跡は、個人住宅（2件）、分譲住宅（1件）、集合住宅（1件）、宅地造成（1件）に伴う調査として、合計152.42㎡実施した。

武蔵国分僧寺跡では、第700次調査で国分寺崖線の緩い斜面上の調査を行った。現状では宅地開発や道路敷設のため、切土や盛土の多い区域であり、原地形の復元が難しい場所であったが、包含層より歴史時代の遺物と縄文時代の遺物が出土しており、近隣に遺構が存在する可能性が窺えた。

武蔵国分尼寺跡の伽藍地内にあたる場所で実施した第701次調査では、尼寺を区画する西辺掘立柱塼の推定位置から内側約7mの場所でSX351性格不明遺構が検出された。調査区内が狭小であったため、全容はつかめなかったが、尼寺東辺の塼の内側では、塼に平行する溝が確認されていることから、SX351も溝状遺構である可能性も想定された。尼寺の伽藍地内の西側・南側は周知の埋蔵文化財包蔵地ではあるが、史跡指定範囲外で宅地化されている場所も多くあり、今後も土木工事等に伴う調査が生じた際は、今回のような小さな範囲の情報を積み重ねて、将来に向けた保存の観点からも遺構の広がりを確認することが肝要である。

武蔵国分寺跡の寺地範囲内では、僧寺伽藍地の北西、武蔵野段丘面上の東山道武蔵路西側で実施した第702次の調査で、掘立柱建物1棟（SB238）、竪穴住居2軒（SI820・821）、土坑2基（SK3436・3437）、小穴2基（P-1・2）を確認した。狭い調査区にもかかわらず、SB238、SI820・821は互いに切り合っており、周辺は遺構の密度が高い場所であることが明らかとなった。

武蔵国分寺の僧尼寺中間地点では、第705次調査で東山道武蔵路を検出した。調査区は、耕作等によって削平、攪乱が多い場所であったが、3本の東西方向のトレンチ内で溝（SD431・432）を確認した。検出された溝は、東山道武蔵路の敷設時の側溝で、国分寺市泉町二丁目で確認された東山道武蔵路第1期に相当する。道路の幅は、側溝の心々で約11.6m～11.8mを測り、当該地においても確実に幅約12mの直線道路が敷設されていたことが確認された。なお、同敷地内では当該調査の後に、引き続き土地造成（1件）や個人住宅建設（3件）に伴う調査を行っており、成果は平成27年度の調査報告書にまとめる予定である。

旧石器時代の調査及び縄文時代の調査を、花沢西遺跡（合計18.27㎡）、殿ヶ谷戸北遺跡（17.89㎡）、No.29遺跡（9.47㎡）、恋ヶ窪東遺跡（7.81㎡）の4遺跡5地点で実施したが、いずれも遺構は検出されなかった。しかし、各調査区出土の遺物は、遺跡の広がりを知るうえで貴重な資料となった。

また、殿ヶ谷戸北遺跡第20次調査では、南側に落ち込む武蔵野段丘面の縁から国分寺崖線にかけてⅢb層が厚く堆積していることが確認された。周辺では旧石器時代の遺物や縄文時代の遺構も確認されており、当該地域の地形を理解するうえで、貴重な成果といえよう。

なお、本書に掲載のない平成26年度に実施された調査のうち、羽根沢遺跡第6次調査（K5-6）は『羽根沢遺跡第6次調査（国分寺市東恋ヶ窪1-280）概要報告書』（平成27年3月）、恋ヶ窪東遺跡第24次調査（K57-24）は『恋ヶ窪遺跡第24次調査（国分寺市本町4丁目2875-1, 2864-1）概要報告書』（平成27年4月）において報告されている。

最後になりましたが、本書をまとめるにあたって、発掘調査の際に多大な御理解・御協力をいただきました工事主体者や施工業者をはじめとする関係者の皆様には、改めて厚く御礼申し上げます。

#### 〔参考文献〕

- 滝口 宏「地と人」『国分寺市史 上巻』国分寺市史編さん委員会 1986
- 国分寺市教育委員会『武蔵国分尼寺Ⅳ—平成7年度発掘調査概報—』1997
- 江坂輝彌・芹沢長介・坂詰秀一編『新日本考古学小辞典』ニュー・サイエンス社 2005
- 国分寺市教育委員会・国分寺市遺跡調査会『武蔵国分寺跡発掘調査概報34』2009
- 国分寺市教育委員会・国分寺市遺跡調査会『武蔵国分寺跡発掘調査概報38』2013
- 国分寺市教育委員会『平成21年度国分寺市埋蔵文化財調査年報』2011
- 国分寺市教育委員会『平成24年度国分寺市埋蔵文化財調査年報』2014
- 国分寺市教育委員会『平成25年度国分寺市埋蔵文化財調査年報』2015
- 国分寺市教育委員会・坂戸市教育委員会『東山道武蔵路を探る～路でつながる古代の国分寺と坂戸～』リーフレット2015



報告書抄録

ふりがな	へいせい26ねんど こくぶんじしまいぞうぶんかざいちょうさねんぼう
書名	平成26年度 国分寺市埋蔵文化財調査年報
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	増井有真
編集機関	国分寺市教育委員会・国分寺市遺跡調査会（会長：坂詰秀一）
所在地	〒185-0023 東京都国分寺西元町1-13-10 武蔵国分寺跡資料館内 TEL 042-300-0073
発行年月日	2016年3月31日
規格／部数	A4版横組1段 46文字×34行 80頁／300部
資料の保存 問い合わせ先	国分寺市教育委員会 教育部 ふるさと文化財課 〒185-0023 東京都国分寺西元町1-13-10 武蔵国分寺跡資料館内 TEL 042-300-0073 FAX 042-300-0091 E-mail bunkazai@city.kokubunji.tokyo.jp

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
武蔵国分寺跡 第700次調査 他4	東京都 国分寺市 西元町	13-214	10・19	35° 41′ 36.7″ 他	139° 28′ 13.3″ 他	20140410 ～ 20150330	合計 152.42	個人宅造 分譲住宅建設 集合住宅 宅地造成
花沢西道跡 第23次調査 他1	東京都 国分寺市 南町	13-214	8	35° 41′ 59.8″ 他	139° 28′ 34.3″ 他	20140421 ～ 20141030	合計 18.27	集合住宅建設 その他建物建設
殿ヶ谷戸北道跡 第7次調査	東京都 国分寺市 南町	13-214	20	35° 41′ 57.9″	139° 29′ 16.7″	20140918 ～ 20140926	17.89	個人宅造
No.29 遺跡 第3次調査	東京都 国分寺市 南町	13-214	29	35° 41′ 59.7″	139° 29′ 9.6″	20140407 ～ 20140414	9.47	集合住宅建設
恋ヶ窪東道跡 第23次調査	東京都 国分寺市 本町	13-214	57	35° 42′ 09.7″	139° 28′ 42.4″	20150316 ～ 20150327	7.81	店舗建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
武蔵国分寺跡	集落跡 寺院跡 道路跡	奈良・平安 時代  縄文時代	道路跡1条 溝2条 掘立柱建物1棟 竪穴住居2軒 土坑2基 性格不明遺構1基 小穴4基  なし	土師器、須恵器、 土師質土器、灰釉 陶器、中世陶磁器、 瓦、鉄釘、鉄滓  縄文土器、石器	幅約12mの東山道武蔵路 を検出。

所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
花沢西遺跡	集落跡	旧石器時代 縄文時代	なし	縄文土器	
殿ヶ谷戸北遺跡	集落跡	旧石器時代 縄文時代	なし	縄文土器	
No.29 遺跡	散布地 (包蔵地)	旧石器時代 縄文時代 奈良・平安 時代	なし	なし	
恋ヶ窪東遺跡	集落跡	旧石器時代 縄文時代	小穴2基	縄文土器	
要 約	平成26年度に国分寺市内で行われた個人住宅、分譲住宅、集合住宅、宅地造成、店舗建設などに伴う確認調査および発掘調査のうち、国庫補助事業によって行われた5遺跡、10地点についてまとめた報告書				

## 平成26年度 国分寺市埋蔵文化財調査年報

発行日	平成28(2016)年3月31日
編 集	国分寺市教育委員会 国分寺市遺跡調査会
発 行	国分寺市教育委員会 〒185-0023 東京都国分寺市西元町1-13-10 (武蔵国分寺跡資料館内 ふるさと文化財課)
印 刷	蕉田印刷株式会社

©Kokubunji City Board of Education 2016. Printed in Japan

表 紙	アートポスト	菊版	125kg
本 文	マットコート	A判	44.5kg

令和4年(2022)3月2日 デジタル版作成